すべての活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人

NPO愛知ネット 活動記録 2009

特定非営利活動法人
NPO愛知ネット
Non-Profit Organization NPO Aichi Net

すべての活動は、
災害時の
情報のために。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、
被災状況など必要な情報を逐次流してきました。
そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と、
いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。
「防災・災害救援」、「社会教育」、「市民活動支援」、「まちづくり」の4つからなる活動は、
被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

■防災・災害救援
Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。

「災害ボランティア体験イベント」
被災地での情報発信及び、被災地域外での情報支援
活動地域防災訓練の企画と実施
「あんぴメール」による安否確認システム構築

■社会教育
Social education

NPO愛知ネットは、愛知県青年の家が公の施設であることを認識し、公平・公正な運営を厳守し、全ての県民が、あらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即した教養を高められるように、愛知県青年の家として環境を整えた社会教育の場を提供します。同時に、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指します。

愛知県「青年の家」の運営　（岡崎市）

■まちづくり
Town planning

災害時には日ごろからのつきあいやネットワークの力が役立ちます。それを充実させ活性化させていくことはまさに「防災の活動」といえます。ＮＰＯ愛知ネットでは、各種イベントの企画実行を通して日ごろからの「地域力向上」に貢献しています。

外国人のための生活情報支援．医療通訳、
行政通訳実施

■　市民活動支援
NPO support

ボランティア活動団体、市民団体、ＮＰＯで活動しているみなさんが活動しやすい環境づくりを目指して、インターネット環境はもとより、「わくわくセンター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案しています。

「ＮＰＯ・市民活動団体の交流」
「安城市民活動センター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」「大府市民活動センター」「豊橋市民センター・オレンジプラザ」の運営
市民団体情報化のための支援活動

■防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

近年の東海・東南海地震強化地域の拡充に伴って、NPO 愛知ネットに対する地域からの防災活動に関するニーズが以前にも増して多くなってきました。

このような状況に際して NPO 愛知ネットはこれまで行ってきた各種の啓発・訓練、情報伝送に関する各種実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には防災会議や啓発イベント、自主防災活動高度化事業、情報伝送に関する実証実験、災害時要援護者サポートブック作成支援や安否確認システムの普及のための活動がそれにあたります。

●防災活動

◇啓蒙・啓発事業

Ⅰ. 実施概要

1．県・市町村並びに、各団体・組織が主催する訓練・会議・委員会などに参画する。そして情報交換、意見交換を行いながら、地域防災力の向上に寄与する。

Ⅱ. 目標・計画と実績

1．目標：防災訓練、会議・委員会に参画し、他団体や地域とのネットワークを広げ、災害時の支援体制を強化する事を目標とする。

●従業員の人数

8 名（天野、高桑、戸上、寺田、南里、宮本、松原、楠原）

●受益対象者の範囲および人数 愛知県民 740 万人

Ⅲ. 実施したイベント

1－1. 東南海・三河地震 65 年 安城市民防災フェア

日 時:2009 年 12 月 13 日(日) 9:00～16:00

場 所:安城市文化センター

安城市社会福祉センター

参加者:アイシン・エイ・ダブリュ(株) アイシン精機(株)
愛知県 愛知県警察本部 (社)愛知建築士会安城支部 あいち防災リーダー会 あんき会
安城・暮らしと耐震協議会 安城警察署
安城更生病院 DMAT 安城農業士会 安城市
安城市液化ガス協同組合 安城国際交流協会
安城市子ども育成連絡協議会
安城市自主防災会連絡協議会
安城市社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会
安城消費生活学校
安城市身体障害者福祉協議会
安城市消防団 安城市スカウト連絡協議会
安城市赤十字奉仕団
安城市地区社会福祉協議会(中央・西部)
安城市町内福祉委員会(榎前町・城南町・南町)
安城市民生・児童委員協議会
安城老人クラブ連絡協議会
安城生涯学習まちづくり企画人
安城青年会議所 安城防災ネット

㈱イノアックコーポレーション　エコりんりん
NPO 碧海・西尾・幡豆　チャンネル Daichi
衣浦東部広域連合消防局　安城消防署
地域生活支援会　Co'mimi(こみみ)
㈱キャッチネットワーク　㈱クサカ
学校法人　さくら学園　震災ガーディアンズ
中部電力㈱　㈱デンソー安城・高棚製作所
㈱デンソーユニティサービス　東邦ガス㈱
名古屋大学　災害対策室
名古屋大学環境学研究科　福和・飛田・護　研究室
日本電信電話㈱　名古屋支店
日本赤十字社　愛知県支部　花ノ木町内会
バルーンアート　やらまいかい
碧海・幡豆ウォーキング協会
碧南防災ボランティア連絡会
防災ボランティアのぞみ　㈱マキタ
NPO 愛知ネット

担当者：天野、高桑、南里、宮本、松原、楠原
内　容：2009 年 5 月より月 1 回の割合で開催された同フェアの実行委員会へ参加。東南海地震・三河地震発災から 65 年を迎える節目の年に産・官・学・民の協働によるフェアを企画検討し、実施した。

1－2. 刈谷市一ツ木町 防災講演会
日　時：2009 年 6 月 27 日(土) 9:00～10:30
場　所：一ツ木市民館
参加者：一ツ木町鵜島地区自主防災会会員約 100 名、
　　一ツ木自治会　刈谷市
担当者：南里
内　容：岩手・宮城内陸地震、岡崎市における 8 月末豪雨の際の災害救援活動について、講演した。

1－3. Let's 防トレ
日　時：2009 年 6 月 28 日(日)
場　所：財団法人 あすて
参加者：地域住民　豊田災害ボランティア会議
　　豊田市保健所　豊田市消防本部
　　豊田警察署　豊田市防災防犯課
　　セルフガード協会　トヨタ自動車㈱
　　トヨタボランティアセンター
　　豊田市社会福祉協議会
　　とよた市民活動センター
　　豊田市国際交流協会　竜神交流館
　　本町自治区　トヨタ紡織㈱ボランティアセンター
　　豊田市文化振興財団　豊田市赤十字奉仕団
　　新明工業㈱

担当者：高桑、松原、南里
内　容：地震災害への備え、新型インフルエンザへの備え、屋内煙道体験と水消火訓練、身近な犯罪についてとガラス割り実演の 4 つをメインブースに、防災に関心

をもつきっかけおよび現状に即した体験イベントを実施した。

1－4. 広域ボランティア支援本部訓練ワーキンググループ、
防災＆ボランティアフォーラム実行委員会、
防災のための愛知県ボランティア連絡会
日 時:2009 年 6 月 19 日(金)～2010 年 1 月
場 所:愛知県東大手庁舎
参加者:日本赤十字社愛知県支部
愛知県社会福祉協議会
日本ボーイスカウト連盟
ガールスカウト日本連盟愛知県支部
特定非営利活動法人レスキューストックヤード
日本アマチュア無線連盟愛知県支部
名古屋市消防局防災部防災室
名古屋市社会福祉協議会
NHK 名古屋放送局、NHK プラネット中部
愛知県
担当者:南里
内 容:主に広域ボランティア支援本部訓練について、愛知県総合防災訓練について、今年度の防災＆ボランティアフォーラムについて話し合った。

1－5.「第 7 回災害ボランティア体験」イベント
日 時:2009 年 8 月 29 日(土)･30 日(日)
場 所:トヨタスポーツセンター
参加者:トヨタ自動車㈱およびグループ会社社員
一般市民
トヨタグループ災害ボランティアネット事務局
トヨタボランティアセンター
トヨタグループ災害ボランティアネット
豊田市社会福祉協議会
JDRトヨタ　豊田市消防本部
豊田市社会福祉協議会　愛知太陽の家
豊田市視覚障害者福祉協議会
豊田市手をつなぐ親の会
視覚障害者センターつえの里
担当者:大野
内 容:トヨタグループ災害ボランティアネット主催による「第 7 回災害ボランティア体験」において、あんぴメールを使用した情報発信や、ロープワーク指導、水消火器体験、瓦礫からの救出、防災クイズなどを実施した。

1－6. 平成 21 年度愛知県･吉良町総合防災訓練における広域ボランティア支援本部訓練
日 時:2009 年 8 月 30 日(日)9:00～12:00
場 所:愛知県自治センター
参加者:日本赤十字社愛知県支部
愛知県社会福祉協議会

日本ボーイスカウト愛知連盟
財団法人国際交流協会
特定非営利活動法人レスキューストックヤード
社団法人日本アマチュア無線連盟愛知県支部
愛知県
担当者:南里、深谷、加藤(賀)
内 容:愛知県からの参集連絡の確認と、広域ボランティア支援本部の立ち上げおよび運営を行った。

1－7. あいち防災協働社会推進協議会
ワーキンググループ
日 時:[第 1 回] 2009 年 10 月 23 日(金)10:30～15:00
[第 2 回] 2010 年 1 月 14 日(木)14:30～16:00
[第 3 回] 2010 年 3 月 15 日(月)13:30～15:00
場 所:県本庁者、愛知県自治センター
参加者:愛知県商工会議所連合会
愛知県商工会連合会 愛知県中小企業団体中央会
愛知県農業協同組合中央会
大府市自主防災会
安城市自主防災組織連絡協議会
県婦人消防クラブ連絡協議会
県小中学校校長会 県社会福祉協議会
トヨタグループ災害ボランティアネット
NPO 法人 レスキューストックヤード
あいち防災リーダー会
担当者:寺田、南里
内 容:各団体における防災推進活動、構成団体間の連携、広報 PR 活動について話し合った。

1－8. 愛知・名古屋防災ボランティアフォーラム 2010
日 時:2009 年 12 月 15 日(火)14:00～16:00 実行委員会
2010 年 1 月 10 日(日)10:00～12:00
ブース出展準備
2010 年 1 月 16 日(土) 9:00～16:00 フォーラム
場 所:愛知県庁、あすなる金山
参加者:愛知県 愛知県建築士事務所協会
一宮防災ボランティアネットワーク NHK
豊橋防災ボランティアコーディネーターの会
なごや防災ボラネット
名古屋市住宅都市局耐震化支援室
日進災害ボランティアコーディネーターの会
日本アマチュア無線連盟愛知県支部
日本赤十字社愛知県支部
日本ボーイスカウト愛知連盟
福祉救援ボランティア「こだま」
担当者:南里、野村、大野、尾島、寺田、加藤
内 容:ブース出展の他、会場イベントや他団体部出展内容を NPO 愛知ネット HP にて情報発信を行った。

1－9. みよし市防災リーダー養成講座
日　時:2010 年 2 月 14 日(日)～15 日(月)
場 所:みよし市
参加者:みよし市市民 11 名
担当者:天野
内 容:みよし市による「平成 21 年度防災リーダー養成講座」にてシナリオワークショップを実施し、みよし市を舞台にした防災ラジオドラマを作成、一連の内容から防災リーダーを養成した。

Ⅳ. 今後の計画・残された課題

1. 今後の計画:県の会議をのぞき今後の予定はなし。
2. 残された課題:さまざまな参加団体との有機的なネットワークのさらなる形成、地域防災力向上をいかに働きかけるか。

2. 調査・研究事業

2－1. 災害時要援護者

Ⅰ. 実施概要

1. 平成 20 年度障害者保健福祉推進事業「地域連携型障害者災害救援ガイドライン」の策定に関する調査研究事業である。災害発生時など緊急時における障がい者支援を地域が連携して行えるように、障がい者団体、地域住民に向けた障害者災害救援ガイドラインを策定する。

Ⅱ. 目標・計画と実績

1. 目標：高齢者や子供、外国人といった災害弱者に対する取り組みは進んできたものの、障がい者に対する取り組みは、災害発生時の安否確認すらままならないのが現状である。そのような現状を打破すべく、本調査研究事業において、災害発生時における障がい者支援に必要な地域連携のあり方のガイドラインをまずは示したい。

●従業員の人数：4 名(天野、戸上、南里、舟橋)
● 受益対象者の範囲および人数：655.9 万人(身体障がい者 351.6 万人、知的障がい者 45.9 万人、精神障がい者 258.4 万人)

Ⅲ. 実施したイベント

1. 地域連携型障害者災害救援ガイドライン策定
日　時：2009 年 3 月 13 日(金)～2009 年 4 月 7 日(火)
場　所：NPO 愛知ネット事務所
担当者：天野、戸上、南里、舟橋
内　容： 第 4 回ガイドライン策定専門委員会において各委員からいただいたご意見をふまえ、ガイドラインを策定した。またガイドラインに対する各種問い合わせに応じた。

Ⅳ. 今後の計画・残された課題

1．今後の計画：障害者災害救援ガイドラインを、県内福祉施設・作業所で活用されるよう展開する。

2．残された課題：今回作った福祉団体や地域の方とのパイプを活かし、地域防災力向上と要援護者支援に寄与する。

2−2. 防災科学技術研究所

Ⅰ. 実施概要

1． 愛知県内の各自主防災組織や団体に対し、防災マップ作り、避難所運営ラジオドラマ作り、避難所開設運営訓練などの手法から、被害想定・現状の評価・対策の実施を行う。また、リスクガバナンスに基づく防災対策の推進方法、各自主防災組織や団体からなる参加住民団体がそれらの手法を理解することを促す地域防災コーディネーターを養成する。そして、愛フェス 2009 において事業の広報活動を行う。また、手法を検討するため、中学生を対象にしたワークショップを実施する。

Ⅱ. 目標・計画と実績

1. 目標： さまざまな主体が連携した防災マップ作り、避難所運営ラジオドラマ作り、避難所開設運営訓練を通して得られた、被害想定・現状の評価・対策の実施により、愛知県内における自主防災活動の高度化をはかる。同時にリスクガバナンスに基づく防災対策の推進方法や参加住民団地が手法を理解することを促進する人材として、地域防災コーディネーターを養成する。愛フェス 2009 等において広報するとともに、手法検討のためのワークショップ等を実施し、地域防災力を向上させる。

●従業員の人数：7 名（天野、寺田、南里、伊藤、加藤、松原、小野）
●受益対象者の範囲および人数：愛知県民 740 万人

Ⅲ. 実施したイベント

1． 愛知県における自主防災活動高度化モデル事業支援業務

日 時（参加組織ごとに記載）：
・吉良町吉田校区おやじの会
7 月 22 日(水)14:00～16:00
8 月 22 日(土)13:00～16:00
8 月 23 日(日) 8:00～12:00

・吉良町防災サポート赤馬
11 月 24 日(火) 9:00～12:00
1 月 13 日(水) 18:00～20:00
1 月 17 日(日) 9:00～12:00
1 月 24 日(日) 9:00～15:00
2010 年 1 月 30 日(土) 9:00～13:00
2010 年 2 月 6 日(土) 18:00～21:00

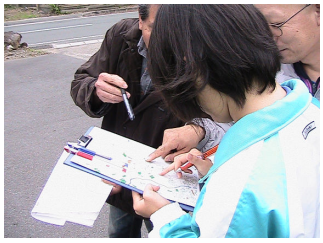
・安城市高棚町自主防災会
8 月 6 日(木)19:00～21:00
12 月 19 日(土) 9:00～12:00

・安城市箕輪町自主防災会
2010 年 1 月　8 日(金)15:00～17:00
2010 年 1 月 13 日(水)14:00～16:00
2010 年 1 月 26 日(火)19:00～21:00
2010 年 2 月　6 日(土)18:00～21:00

・春日井市中央台自主防災会連合会
8 月 12 日(水)13:00～15:00
9 月 27 日(日)13:00～17:00
11 月　8 日(土) 9:00～12:00
12 月 20 日(日)10:00～12:00
2010 年 2 月 28 日(日)10:00～12:00

・春日井市ネオポリス自治会
8 月 12 日(水)18:30～21:00
11 月 28 日(土) 9:00～12:00
2010 年 2 月 21 日(日)10:00～12:00

・田原市野田小学校区
9 月 14 日(月)19:30～21:00
10 月 13 日(火)19:00～21:00
11 月 10 日(火)13:00～17:00
11 月 13 日(日)12:00～15:00
12 月　1 日(火)19:00～21:00
12 月　4 日(金)13:00～15:00
12 月 11 日(金)13:00～15:00

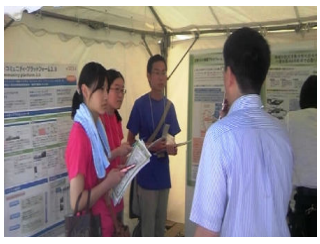


・田原市清田小学校区
12 月　4 日(金)19:00～21:00
2010 年 1 月　7 日(木)19:00～21:00
2010 年 1 月 28 日(木)17:00～21:00

・豊橋市八町小学校区
11 月 18 日(日)18:00～21:00
12 月 22 日(火)19:00～21:00
2010 年 1 月 15 日(金)10:00～12:00
2010 年 1 月 23 日(土)14:00～17:00
2010 年 2 月 18 日(木)19:00～21:00

・豊橋市弥生町自主防災会
12 月 23 日(水)19:00～21:00
2010 年 1 月 15 日(金)17:00～19:00
2010 年 1 月 20 日(水)19:00～21:00
2010 年 2 月 17 日(水)16:00～18:00

・半田市亀崎小学校区
10 月 30 日(金)19:00～21:00
2010 年 1 月 15 日(金)10:00～12:00
2010 年 2 月　2 日(火)19:00～21:00



・愛フェス 2009
9 月 5 日(土)19:00～21:00
9 月 6 日(日)10:00～12:00

・地域防災コーディネーター養成講座
2010 年 1 月 18 日(月)～1 月 19 日(火)

・地域発・防災ラジオドラマづくりワークショップ
2010 年 3 月 21 日(日)～22 日(月)
場　所：愛知県内各地域
参加者：独立行政法人 防災科学技術研究所、
各地域自主防災組織、関係組織、各市町村担当者
担当者：天野、高桑、南里、寺田、加藤、伊藤、山下(克)
内　容：愛知県内地域で事業を展開にするにあたり、愛知県およびモデル事業実施地域住民との打ち合わせを重ね、事業を実施した。同時に、日頃から防災活動を展開してる自主防災組織のリーダーや、役員および会員などの中から 20 代から 60 代の男女 60 名を選定し、防災コーディネーター用制講座を実施した。そして、事業については、愛フェス 2009 において広く PR した。また、岡崎市立竜南中学校および同校生徒、地域住民や関係組織の協力を得て、防災ラジオドラマ作りワークショップを実施した。

Ⅳ. 今後の計画・残された課題

1．今後の計画：愛知県内において、防災マップづくり、避難所運営ラジオドラマ作り、避難所運営訓練を実施する。これにより、自主防災活動および地域防災力向上をはかる。

2－3. 宇宙航空研究開発機構

Ⅰ. 実施概要

１．宇宙航空研究開発機構が実施する超高速インターネット衛星「きずな(WINDS)」の基本実験と非常
用通信等伝送実験における実験準備及び実施に関わる業務を行った。

Ⅱ. 目標・計画と実績

１.目標： 宇宙航空研究開発機構が実施する超高速インターネット衛星「きずな(WINDS)」の基本実験と非常用通信等伝送実験における、山間部における要援護者支援を目的に、訓練シナリオ作成とシステムの実証実験を支援する。

２．計画：１．つくば近隣の災害ボランティア団体(茨城 RB・神奈川 RB)との連絡調整
２．実災害を想定した訓練シナリオの検討業務
３．災害救援 WEB に関する調査・研究

●従業員の人数：5 名(天野、戸上、舟橋、南里、伊藤)
●受益対象者の範囲および人数：愛知県民 740 万人、つくば市民 21 万人

Ⅲ. 実施したイベント

１．事業計画の策定
日　時：5 月 20 日(水) 13：30～15：00
場　所：筑波宇宙センター　総合開発推進棟 会議室
参加者：JAXA、NPO 愛知ネット
担当者：天野、深谷
内　容：事業実施内容を確認と、シナリオ改訂の検討を行った。

２．本事業の概要説明
日　時：6 月 7 日(日) 13：30～15：00
場　所：筑波宇宙センター　総合開発推進棟 会議室
参加者：JAXA、SED、茨城 RB、神奈川 RB、NPO 愛知ネット
担当者：天野、深谷
内　容：JAXA による本事業の概要説明後、事業目的と
地球局自立運用の為の計画の確認が行われた。

３．茨城県における「災害等の非常時における通信手段等の実証実験」
日　時：6 月 21 日(日) 10：00～16：00
場　所：筑波宇宙センター　総合開発推進棟 会議室
参加者：JAXA、茨城 RB、ibaraki-net、神奈川 RB、NPO 愛知ネット
担当者：天野、深谷
内　容：訓練シナリオに基づき、「きずな(WINDS)」を用いた
訓練を実施した。

４．訓練参加に関する検討会
日　時：9 月 8 日(火) 13：30～15：00
場　所：筑波宇宙センター　総合開発推進棟 会議室
参加者：JAXA、SED、NPO 愛知ネット
担当者：天野、深谷、南里
内　容：6 月に実施した訓練結果をふまえ、9 月 27 日に実
施する訓練内容の検討を行った。

５．茨城県における災害等の非常時における通信手段等の実証
日　時：9 月 27 日(日) 9：00～11：30
場　所：筑波大学　　筑波宇宙センター
参加者：JAXA、SED、茨城 RB、神奈川 RB、NPO 愛知ネット
担当者：天野、戸上、舟橋
内　容：訓練シナリオに基づき、きずなを用いた訓練を実施した。

６．愛知県における災害等の非常時における通信手段等の実証実験の為の打ち合わせ
日　時：10 月 14 日(水) 16:00～18：00
10 月 28 日(水) 9：30～16：30
場　所：豊田市社協、豊田市社協小原支所、NPO 愛知ネット事務所
参加者：JAXA、SED、豊田市社協
担当者：天野、南里
内　容：茨城での訓練結果をもとに、豊田市社協の協力を得て
山間部(小原支所)で 12 月に実施する訓練内容の検討を行った。

７．愛知県における災害等の非常時における通信手段等の実証実験
日　時：12 月 2 日(水)～12 月 5 日(土)
各関係者出動体制と情報共有体制の確認、機材調整
12 月 6 日(日)
通信手段等の実証実験
場　所：豊田市社会福祉協議会、豊田市社会福祉協議会小原支所
参加者：JAXA、SED、茨城 RB、神奈川 RB、豊田市社会福祉協議会
担当者：天野、戸上、南里
内　容：茨城での訓練結果をもとに、豊田市社協の協力を得て山間部(小原支所)で 12 月に実施する訓練内容の検討を行った。

8．茨城県における災害等の非常時における通信手段等の実証実験
日　時：3 月 14 日(水) 9:00～15:00
場　所：筑波宇宙センター
参加者：JAXA、SED、茨城 RB、神奈川 RB、NPO 愛知ネット
担当者：天野、南里、伊藤
内　容：シナリオに基づく訓練に先立ち、地球局の組み立て訓練、使用アプリケーションの実証実験を行った。

9．茨城県における災害等の非常時における通信手段等の実証実験
日　時：3 月 19 日(水) 13:30～16:00
場　所：筑波宇宙センター
参加者：JAXA、SED、茨城 RB、神奈川 RB、NPO 愛知ネット
担当者：天野、伊藤
内　容：今年度の実験業務報告及び次年度の事業について検討した。

Ⅳ．今後の計画・残された課題

１．今後の計画：訓練結果で得られた成果を基に、山間部を会場とした訓練を行う事で、きずなの災害時における有用性を実証したい。

2－4. 安城市社会福祉協議会

Ⅰ. 実施概要

1．ボランティアが技術支援している要援護者への理解や支援方法を地域の人に伝える為のツールとして、サポートブックを作成することへの支援を行う。

Ⅱ. 目標・計画と実績

1.目標：サポートブック作成にあたり、ボランティア・要援護者・地域・NPO が協力連携し、支援体制への理解を深め、その充実を図る。

●従業員の人数：1 名(南里)
●受益対象者の範囲および人数：安城市民 18 万人

Ⅲ. 実施したイベント

1．平成 21 年度安城市社会福祉協議会ボランティア連絡協議会
のサポートブック作成事業におけるアドバイザー業務
日　時：6 月 13 日(土)13:30～15:00
6 月 20 日(土)13:00～15:00
8 月 8 日(土)10:00～12:00
9 月 19 日(土)13:30～15:00
12 月 3 日(木)10:00～13:00
12 月 13 日(日)10:00～13:00
12 月 16 日(水)10:00～13:00
場　所：安城市社会福祉協議会
参加者：安城市ボランティア連絡協議会、町内会役員、
民生委員　計 40 名
担当者：南里
内　容：20 年度障害者保健福祉推進事業、過去の災害救援活動をふまえ、参加者参画型による地域知を取り入れる講演を実施した。
サポートブック作成へのアドバイスを行った。また、12 月 13 日(日)安城市民防災フェアにおける要援護者カフェにおいて、本サポートブックを活用したコーナー展開をファシリテートした。

Ⅳ. 今後の計画・残された課題

1．今後の計画：地域と連携したサポートブックを作成する為のアドバイスを行う。

3. 情報支援事業

3−1. あんぴメール、安全・安心メール

Ⅰ. 実施概要

1．災害時に携帯電話のメールシステムを使い安否の確認をするとともに、安否の確認を家族に知らせるシステム。また、そのシステムを流用し、平常時は不審者情報や火災情報などを配信する安全・安心システムの運用。

Ⅱ. 目標・計画と実績

1. 目標： 安否確認システム利用者 3 万人。安全・安心システム利用者 1 万人。
計画：安否確認システムで 7 千人、安全・安心システムも含め今年度中に 1 万人を計画。
実績：安否確認システムは、5 千人。安全・安心システムは 2 千 500 人と、利用者数を増加させた。

●従業員の人数：2 名(天野・伊藤)
●受益対象者の範囲および人数：7 千 500 人

Ⅲ. 実施した事業内容

あんぴメール運営検討会を開催し、配信情報についての意見・今後システムを改修するにあたっての要望を聴いた。また、「あんぴメール運営協議会」の設置を決定し、要望への回答・システム改修の進捗状況を定期的に報告するようにした。

Ⅳ. 実施した事業内容

今後の計画：前年度に引き続き、本年度もあんぴメール運用としては黒字である。今後は、システムへの要望をふまえ、システム改修を行いながら、人件費を出すまでに事業を成長させたい。また、安全・安心メール利用を拡大させていきたい。

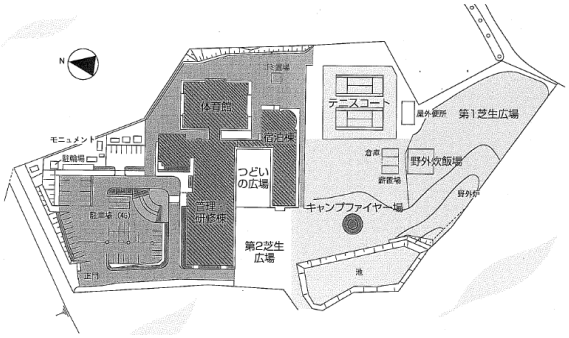
今後の課題：レスキューナウからの情報提供に切り替え運用している。今後は、上記計画をもとに、利用拡大を、いかに行うかの検討を重ねていく必要がある。

■社会教育

Social education

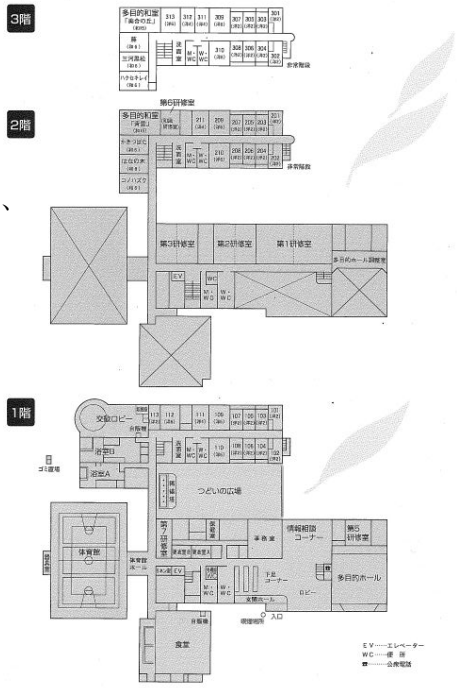
○愛知県下唯一の県立青年の家である当施設は、青少年のみなさんが、規則正しい集団宿泊生活をしながら、研修活動、野外教育活動、レクリエーション活動などを通して、協同・友愛・奉仕の精神を養い、よりよい社会人としての資質を身につけるために作られた社会教育施設です。

●愛知県青年の家



Ⅰ. 施設概要

場　　所：岡崎市美合町並松 1-2
電　　話：(0564)51-2123
ファックス：(0564)51-2027
E－mail：staff@aichi-yh.jp
U　R　L：http://aichi-yh.jp/
開館時間：宿泊客無し 8 時 30 分～17 時 30 分
　　宿泊客有り 8 時 30 分～22 時
休　館　日：毎週月曜日(祝日の場合は火曜日が休館日)
主な施設：
・管理棟 第 1 研修室(99 人)、第 2 研修室(63 人)、
　第 3 研修室(63 人)、
　第 4 研修室(多目的ホール<収納式椅子 192 人>)、
　第 5 研修室(36 人)、第 7 研修室(18 人)、
　ボランティアルーム(12 人)、
　情報相談コーナー、保健室、更衣室 2 室、
　食堂(116 人収容可能)
・宿泊棟 宿泊室 45 室(洋室 37 室、和室 8 室)
　洋室:2 人用(バストイレ付)6 室、
　2 人用(バストイレ無)19 室、4 人用 4 室、
　6 人用 8 室
　和室:6 人用 6 室、15 人用(研修室兼用 2 室)、
　第 6 研修室(葵庵)、
　交歓ロビー、浴室・シャワー室 2 室
・体育館 バスケットボール(1 面)、バレーボール(1 面)、
　バトミントン(3 面)など



Ⅱ. 目標・計画と実績

1. 当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造』『生きる力』『和(役立ち合い)の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。(主催事業の充実・キャラバン隊新設・派遣)
2. 地域との連携を深める事業の充実を図る。(子ども会・ヤングサポーター)
3. サービス向上のために、施設等の充実を図る。(バッテリーの交換・ボイラー修理)
4. 昨年並みの利用者数を目指し、経営化の安定に努める。

●従業員の人数・・・18 名
●受益対象者の範囲および人数
受益対象者:青年の家宿泊及び日帰りの利用客　人数:1,000,000 名(実績:55,000 名)

Ⅲ. 実施したイベント

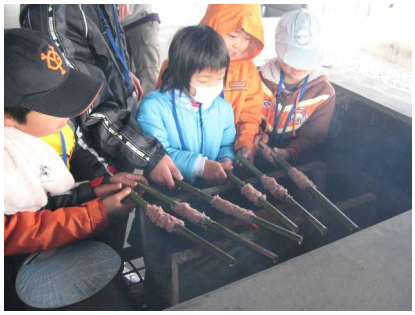
1. 週末活動支援事業

(1)イベント名「宇宙に挑戦！」
日　時:平成 21 年 5 月 30 日(土)
場　所:青年の家
参加者:62 名
内　容:ペットボトルロケット・野外炊飯

(2)イベント名「流星に挑戦！」
日　時:平成 21 年 7 月 11 日(土)
場　所:青年の家
参加者:45 名
内　容:手打ちうどん

(3)イベント名「ブラックホールに挑戦！」
日　時：平成 21 年 9 月 5 日(土)～6 日(日)
場　所：青年の家
参加者：30 名
内　容：紙すき、野外炊飯、キャンプファイアー

(4)イベント名「銀河に挑戦！」・サンクスフェア
日　時:平成21年12月19日(土)
場　所:青年の家
参加者:42名
内　容:クリスマスの飾りつけ、正月の飾りつけ



(5)イベント名「月に挑戦！」
日　時:平成22年1月16日(土)
場　所:青年の家
参加者:38 名
内　容:餅つき、木登り

2. 50周年祝賀会

日　時:平成21年11月3日(祝)
場　所:青年の家
参加者::47名
内　容:情報交換・交流
　　利用団体の楽器・太鼓演奏

3. 青年の集い

(1)イベント名「ユースフォーラム」

日　時:平成21年9月26日(土)～27日(日)
場　所:青年の家
参加者:31名
内　容:交流会、研究・意見発表会

(2)イベント名「かっこいいオトナから学べ！」

日　時:平成22年2月6日(土)
場　所:青年の家
参加者:29名
内　容:講演・座談会

(3)イベント名「ユースフォーラム　PART2」

日　時:平成22年2月19日(金)～21日(日)
場　所:青年の家
参加者:200名
内　容:講演・活動体験、交流会

4. 科学実験キャラバン隊

開催数:44回
場　所:愛知県青年の家　他14会場
参加者:約 400 名
内　容:各種科学実験

5. 子ども会との連携事業

開催数：23 回
場　所：愛知県青年の家
参加者：約 500 名
内　容：レクリエーション、工作など

Ⅳ. 今後の課題

1. 今後、空調設備・ボイラー・監視カメラ・体育館の壁などの工事を計画的に進める必要がある。
2. 畳の表替え・マットレスの交換・消火器及び非常灯バッテリーの交換
3. 食事と入浴についての満足度アップ
4. DAYキャンプの利用料金の検討
5. 宿泊率50%に向けての対策(25,000 人)
   宿泊利用率 20%台の月(10・11・1・2 月)

■NPO・市民団体支援

NPO support

昨年度まで進めてきたボランティアや市民活動を支援するセンターの管理運営を中心とする事業を引き続き実施していきます。今後は地域内分権がより進むことが予測されるため、それぞれの行政区域の特性を活かす事業が求められています。

指定管理者による施設の運営とあわせて、ボランティア及び市民活動の促進を目的に、ＮＰＯとしての特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきたいと考えます。

●刈谷市民ボランティア活動支援センター

センター概 要

センター外観

場　　所 ： 刈谷市寿町 1-409

電　　話 ： 0566-62-8231

ファクス ： 0566-62-8232

Ｅ－mail ： kcv109box@katch.ne.jp

Ｕ　Ｒ　Ｌ ： http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/

開館時間 ： 10 時～21 時　但し、日曜日 10 時～17 時

休　館　日 ： 毎週月曜日、年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)

主な施設 ： 交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、
障がい者用トイレ、駐車場

使用料金 ： コピー機使用は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参
※施設、ロッカー、その他機材使用は無料

談話スペース ：登録団体が打ち合わせ、団体間の交流の場として利用。
※テーブルは 2 島有り 18 席と 18 席、36 席で利用することも可能

ロッカー ： 活動に必要な備品などを保管する場所として利用。(ロッカー数は、27 個)

メールボックス ： 各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用。
(メールボックスの数は、36 個)

作業スペース ： 印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。

＊貸出備品:プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート(10 着)、クリスマスツリー(2 セット)、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ(5本)、ビンゴマシン、布ぞうり製作台(6 台)、
本年度より→小型プロジェクター、 レーザーポインター、ハンドベル、防災カルタ、非常持出しゲーム

Ⅰ.センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

(1)業　務　名 ： 刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営委託

(2)事業の目的 ： 様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する

(3)実 施 期 間 ： 平成 20 年 4 月 1 日(土)～平成 22 年 3 月 31 日(土)
（指定管理＝平成 22 年 3 月 31 日まで)

2. センターの任務

（1） 情報の収集・提供業務

①「かりや市民ボランティア活動情報サイト」(ボランティア情報サイト)の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集などのコーディネート業務、サイト利用操作説明など
②刈谷市民ボランティア活動支援センターのHP作成及び維持管理
③メールマガジン及び情報誌(ぼらっち。)等の発行

（2） 活動場所の提供業務

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応
②印刷機器等設備の利用に関する事務

（3） 意識啓発・普及業務

①意識啓発活動の実施(業務全体を通じて)
②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

（4） 人材育成・交流業務

①人材育成のための研修会を企画・運営(スキルアップ講座等)
②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
（NPO・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催）

（5） 相談・連絡調整業務

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能(マッチング活動)
②NPO法人認証取得のための相談への対応

Ⅱ.目標と実績

狙い ： 市民に頼りにされる(なくては困る)センターをめざす。
目標 ： 1. 前年数値実績の 5%以上アップメドに活動する。
2. 次期指定管理者として受託できような実績を作る
重点施策
1. 基本的には従来の活動を踏襲するが新規の施策として。
2. 地球規模で課題になっているのは、地球温暖化対策であるが、刈谷市民もまだまだ低調であり啓発が必要であると思うので、エコに対する啓発活動をする。

3. 刈谷市は今年、共存・協働のまちづくり推進条例が制定された。今までは、NPO団体を増やすとか、個人とNPO団体とのマッチングに努めてきたが、今後は、行政、企業、NPOなど団体間のマッチングにも重点をおいて取組む。

表1 目標と実績 ＊H15 年は半年間の活動実績。 H20年に個人会員の見直しを実施し 45 人が退会。

	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年	H22 年	
	実 績	実 績	実 績	実 績	実 績	実 績	実 績	前年比	目標
総来館者数	2,512	6,260	6,917	8,392	11,072	12,313	11,986	97%	111%
相談件数	139	227	472	554	624	706	742	105%	113%
マッチング件数	11	49	54	62	71	78	86	112%	110%
団体登録	130	179	208	227	253	284	319	112%	112%
個人登録者	7	33	62	105	129	116	150	108%	125%

1.数値実績
総来館者数は、前年比 97%であったが、他は目標の 105%以上の実績であった

(1)総来館者数は、NPO法人「くるくる」の堆肥回収がなくなったことと将棋サークルの参加者が減り、前年比 97%になった。
(2)相談件数、マッチング件数、団体登録数は目標の 105%を上回った。

2.イベント実績
(1)車座集会は年間 5 回、スキルアップ講座も年間 5 回が年度計画であるが、年間実績は下記のとおり、車座集会は5回、スキルアップは11回実施した。
(2)講座以外の特別活動として、5 万人目感謝祭、モリコロ基金募集説明会、コラボ400NPO向け講座など、7イベントを追加で実施した。また今年もセンター横の空き地を利用して、温暖化対策のグリーンカーテンを設置した。
(3)協働の事例集を作成し登録団など関係部署に配布し協働について啓発活動をした。

Ⅲ. 実施したイベント

1. 車座集会

(1)イベント名 第 31 回車座集会
日 時: 2009 年 4 月 25 日(土)18:30～20:00
場 所: 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者: 28 名 (NPO 代表者)
講 師: 松下典子氏
(NPO法人地域福祉サポートちた代表)
担当者: スタッフ全員
内 容: 協働の時代～これから地域でどうする～
というテーマで実施した。

(2)イベント名　第 32 回車座集会
日　時：2009 年 6 月 13 日(土)18:30～20:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：30 名
講　師：松本直之氏(松本自然農園代表)
担当者：スタッフ全員
内　容：環境に優しい自然農法での野菜づくり
～システムエンジニアからの転身～
というテーマで実施した。

(3)イベント名　第 33 回車座集会
日　時：2009 年 8 月 29 日(土)18:30～20:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：19 名
講　師：加藤早苗氏
(NPO法人育て上げネット中部虹の会代表)
担当者：スタッフ全員
内　容：ニート引きこもりの就業支援
働きたいけれど働けない若者の苦悩や、若者を取り巻く 家庭や社会の現状を丁寧に語ってくださいました。

(4)イベント名　第 34 回車座集会
日　時：2009 年 11 月 20 日(金)18:30～20:15
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：26 名
講　師：澤田和孝氏(刈谷市役所環境課職員)
担当者：スタッフ全員
内　容：ストップ温暖化　～楽しもうエコライフ～
地球温暖化の要因、対策など説明いただいた後
皆で身近に出来ることなど話し合いました。

(5)イベント名　第 35 回車座集会
日　時：2010 年 2 月 6 日(土)18:30～20:15
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：32 名
講　師：三島知斗世氏
(NPO法人ボランタリーネイバーズ理事)
担当者：スタッフ全員
内　容：あなたにとって協働のまちづくりとは？
市民協働の解説やあり方などを語ってくださいました。

2. スキルアップ講座

(1)イベント名　第 29 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 4 月 1 日(水)～5 日(日)終日
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：84 人
講　師：進行　センタースタッフ
担当者：スタッフ全員
内　容：誰でも気軽にできる収集ボランティアの体験特別週間として実施、今年はエコキャップを追加した。

(2)イベント名　第 30 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 5 月 16 日(土)13:30～15:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：小学生 23 人
講　師：おもしろ科学実験キャラバン隊
赤堀隆隊長以下 4 名
担当者：スタッフ全員
内　容：小学生に科学・理科の関心を高めるために、身近でできる科学実験の体験を実施した。

(3)イベント名　第 31 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 7 月 22 日(水)10:30～12:00
13:30～15:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：24 組　39 人の親子
講　師：清水敏和氏　北野幸助氏　田中清博氏
(刈谷おもちゃ病院)
担当者：スタッフ全員
内　容：間伐材を使った親子エコチェアー工作を実施。

(4)イベント名　第 32 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 8 月 23 日(土)10:00～12:00　13:30～15:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：午前 17 人、午後 10 人　計 27 人
講　師：米田正寛氏　少林寺拳法連盟刈谷南支部長
担当者：スタッフ全員
内　容：いざ護身術　自分を磨こう！心を磨こう！
ボランティアの話を豊富に取り込んだ内容であった。

(5)イベント名　第 33 回スキルアップ講座
日　時:　2009 年 9 月 20 日(日)10:00～12:00
場　所:　刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者:　8人の方が 10 組のマイチェアを作った
講　師:　清水敏和氏　北野幸助氏　田中清博氏
　　(刈谷おもちゃ病院)
担当者:　スタッフ全員
内　容:　間伐材を使った親子エコチェアー工作を実施。
　　今秋のエコ連増講座の一環として実施した。

(6)イベント名　第 34 回スキルアップ講座
日　時:　2009 年 10 月 15 日(木)10:30～12:00
場　所:　刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者:　20 人
講　師:　杉浦ひろ子氏　(安生エプロン会会長)
担当者:　スタッフ全員
内　容:　暮らしのゴミダイエット
　　～家庭でできる簡単な堆肥づくり～
　　というテーマで講義のあと、各自が堆肥作りのセットをつくって家庭に持ち帰った。

(7)イベント名　第 35 回スキルアップ講座
日　時:　2009 年 10 月 29 日(木)10:00～12:00
場　所:　刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者:　22 人
講　師:　高井邦彦氏(自然に学びローゼルを育てる会会長)
担当者:　スタッフ全員
内　容:　ローゼルジャムを作りながら環境について考えてみよう！
　　上記テーマで開催した。

(8)イベント名　第 36 回スキルアップ講座
日　時:　2009 年 11 月 5 日(木)10:30～12:00
場　所:　刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者:　22 人
講　師:　大矢桂己氏(刈谷市役所職員)
　　野島美智子氏(かきつばたワークス施設長)
担当者:　スタッフ全員
内　容:　刈谷のエコを楽しく学ぶ
　　～ゴミの分け方・出し方～というテーマで開催した。
　　ゴミの分け方については、カルタ方式で行った。
　　また、全員が、新聞紙を使ったエコバック作りで楽しんだ。

(9)イベント名　第 37 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 11 月 12 日(木)13:00～16:45
場　所：刈谷市ゴミ処理場、ゴミ埋立場
参加者：20 人
講　師：刈谷市役所環境課・市民協働課の職員が同席
担当者：スタッフ全員
内　容：刈谷のエコを見にいこう！～環境施設バスツアー～
というテーマで開催し、ゴミ処理場と埋立て地の見学をした。

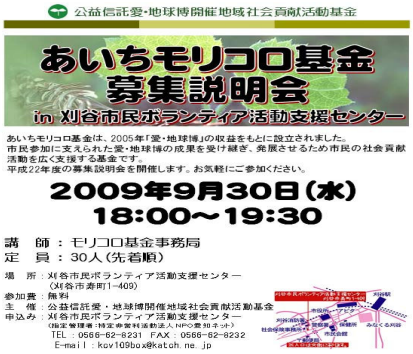
(10)イベント名　第 38 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 11 月 21 日(土)、22 日(日)開館時間
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：27 人
講　師：当番のスタッフ
担当者：スタッフ全員
内　容：エコキャップ回収キャンペーン
“MAKE A CHANGE DAY”
の参加イベントとして実施した。
27 人の参加者が 13,600 個のキャップを持参された。
17 人の子どものワクチン及び 107KGNO炭酸ガスが減っ た。

(11)イベント名　第 39 回スキルアップ講座
日　時：2009 年 12 月 8 日(火)13:00～15:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：12 人
講　師：西村あき子氏(ふれあい広場幸代表
前田幸汪氏(個人会員)
担当者：スタッフ全員
内　容：しめ縄をいっしょにつくりませんか！
開設以来毎年実施し、今年で6回目になりました。

3. 特別イベント

(1)5万人目感謝祭
日　時：2009 年 6 月 11 日(木)
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
対象者：早川宣子氏
内　容：当日の様子は、KATCH、中日新聞、刈谷ホームニュース,
刈谷市のホームページに掲載された。

(2)あいちモリコロ基金募集説明会
日　時：2009 年 9 月 30 日(水)18:00～19:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：20 人
講　師：あいちモリコロ基金事務局
担当者：スタッフ全員
内　容：22 年度のモリコロ基金の募集説明会を地域会場のひとつとして当センターで開始した。



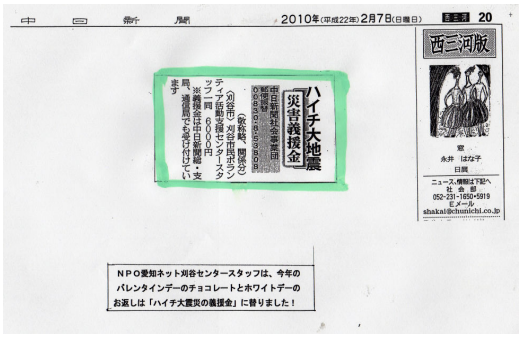
(3)コラボ 400 第1回市民 NPO 向け連続講座
日　時：2009 年 10 月 3 日(土)13:30～16:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：25 人
講　師：特定非営利活動法人 PSC
担当者：スタッフ全員
内　容：名古屋開府 400 年の記念イベントである
コラボ 400 の NPO 向け講座の会場として開催
テーマ:協働の基礎講座

(4)コラボ 400 第2回市民 NPO 向け連続講座
日　時：2009 年 12 月 5 日(土)13:30～16:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：17 人
講　師：特定非営利活動法人 PSC
担当者：スタッフ全員
内　容：名古屋開府 400 年の記念イベントである
コラボ 400 の NPO 向け講座の会場として開催
テーマ:企画力魅力アップ講座

(5)コラボ 400 第3回市民 NPO 向け連続講座
日　時：2010 年 2 月 6 日(土)13:30～16:30
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：29 人
講　師：特定非営利活動法人 PSC
担当者：スタッフ全員
内　容：名古屋開府 400 年の記念イベントである
コラボ 400 の NPO 向け講座の会場として開催
テーマ:プレゼンテーション魅力アップ講座

(6)バレンタインデーのチョコがハイチに！

日　時：2010 年 2 月 6 日(土)13:30～14:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：　6 人
講　師：なし
担当者：スタッフ全員 6 人
内　容：バレンタインデーのチョコレートの
プレゼントとホワイトデーのお返しの替りに、
ハイチ大震災の義援金として中日新聞社に
託しました。



(7)遊防災

日　時：2010 年 2 月 6 日(土)13:30～14:00
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：69 人
講　師：刈谷赤十字奉仕団:28 人
刈谷防災ボランティア:5 人
刈谷消防署:2 人、デンソーユニティ:2 人
担当者：スタッフ全員 6 人
内　容：講師以外に駐車場・受付ボランティア:18 人
の協力を得て実施。
普段訓練に参加しにくい、若い親子、障害者
高齢者を主対象に実施。メニューは炊き出し、
クイズ、AED 操作、簡易救急法など。

4. その他

「こらぼレポ特別発刊」

日　時：2009 年 10 月 20 日(火)発行
場　所：刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者：・・・・
講　師：発行責任者:刈谷市役所市民協働課
編集:刈谷市民ボランティア活動支援センター
担当者：スタッフ全員 6 人
内　容：「協働って」難しく考えている市民が多いので
分かり易い事例紹介と双方のメリットを表した
冊子を作って、登録団体等に配布した。

Ⅳ.今後の計画・残された課題

1. まとめ

(1) 数値目標に対しては、総来館者数が未達成でしかも前年を下回ってしまった。
ディサービスの団体が定期訪問していたがなくなったのが大きな要因である。
但し、センター機能を評価する、相談人、相談件数、マッチング件数は目標を達成している。

(2) 車座集会、スキルアップ講座は年度計画を大きく上回って実施してきた。またコラボレポ(協

働事例集）の作成など、協働元年にふさわしい活動をしてきた。

（3）2 年後の新しい施設先のレイアウトなど検討してきた。

（4）2010 年、10 月に刈谷市の会計監査が予定されているので、帳簿管理を几帳面におこなってきた。

（5）センターのサービスの充実 （以下、具体的な取り組み）

①NPO 愛知ネットの市民への周知

- 5周年記念誌発行し、関係部署に実績周知
- 情報誌発行を自治会長、公民館長に送付
- 市内の NPO と連携（主たる NPO 団体の個人会員）
  刈谷おもちゃ病院、ひかりの家、かきつばたワークス、パンドラ、かたーら、くるくる、
  ラルあゆみ、WAFCA
- 市内のイベント参画（協働推進委員会など）

②市民の期待に応えるセンターの構築

- 5万人達成記念、 コラボ 400 の会場提供、モリコロ基金説明会の会場提供
- 利用者のポスト設置と迅速な対応）
- 市民サービス向上
  ・寄贈による貸出部品を増やす、プロジェクターなど
  ・用紙などの原価斡旋

③市役所担当課との円滑なコミュニケーション

- 協定書を上回る実績（イベント、数値目標）
- 市役所の要望に快く答える。
  ・市民協働委員会参画
  ・担当課と協働で進める コラボ事例集作成 他

④スタッフのスキルアップ

- 隔週の定例研修会の実施
- 自己啓発
- ボランティアコーディネション検定試験に5人受験（受験者全員合格）

2. 今後の課題

（1） 協働時代に対応した活動

（2） コラボ 400・コラボ 60・刈谷市市民活動基金などのPR

（3） 企業、行政とのマッチング

（4） 環境（エコ）の分野の団体の啓発

（5） 愛知ネットらしさのPR 愛フェス地域イベント、遊防災

（6） スタッフのスキルアップ コーディネーション力アップ

●安城市民活動センター／わくわくセンター

センター概要

場　　所 ： 安城市大山町1－7－1
電　　話 ： 0566－71－0601
ファクス ： 0566－71－0668
E－mail ： center@katch.ne.jp
U　R　L ： http://www.katch.ne.jp/~center
開館時間 ： 9時～21時
休 館 日 ： 毎週月曜日（但し、月曜日が祝日の場合は直後の休みでないが休館。）及び、年末年始（12月28日～1月4日）
主な施設 ： 交流スペース、作業スペース、情報スペース、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場
使用料金 ： コピー料金は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参。その他の施設は無料
交流スペース ： 登録団体が打合せの場として利用。テーブル2セット、各椅子6脚
作業スペース ： 印刷機・紙折機・裁断機・丁合機・製本機・電動ホチキス・ラミネータを設置
情報スペース ： インターネット閲覧可能なパソコン1台、カラープリンター、ちらしラックを設置
ロッカー ： 活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、36個）
貸出し備品 ： プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン2台
そ の 他 ： コピー機

Ⅰ．センターの役割と任務

1．委託業務名・目的

（1）業　務　名 ： 安城市民活動センター運営・交流事業委託

（2）事業の目的 ： 様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する。

（3）実施機関 ： 平成20年4月1日～平成21年3月31日

2．センターの任務

（1）情報の収集・提供業務 ： あんじょう市民情報サイト、メルマガ、HP等の維持管理

（2）活動場所の提供業務 ： 施設利用、機器の活用等の管理と団体運営の相談業務の遂行

（3）意識啓発・普及業務 ： 各種説明会、施設めぐり対応、社協・生涯学習課との連携

（4）人材育成・交流業務 ： スキルアップ講座、ミニ講座等を通した人材育成に関する企画・運営

（5）相談・連絡調整業務 ：NPO立上げ相談、各種マッチング活動の推進

Ⅱ．目標･計画と実績

１．センターの利用実績　（平成 16 年 1 月 5 日　安城市民活動センター設立、運営）

(1)団体登録(平成 16 年度は平成 17 年 1～3 月の実績)　総登録数:300 団体

	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
登録団体数	54団体	114団体	53団体	28団体	25 団体	26団体

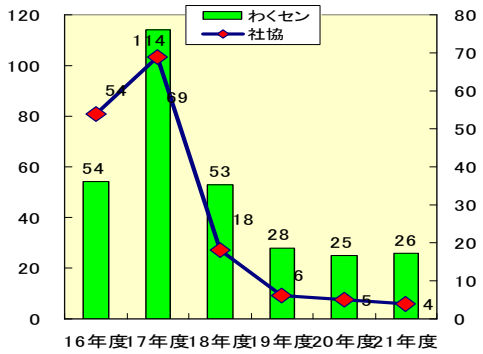
※平成 21 年の登録は 32 団体の実績であるが、6 団体の削除で 26 団体となった。

(2)個人登録　総登録者数:85名

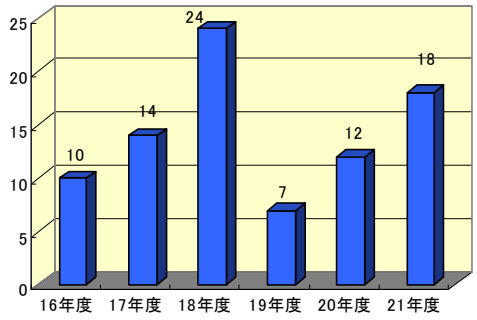
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	20 年度	H21 年度
登録者数	10 人	14 人	24 人	7 人	12 名	18 名

※平成 21 年の登録は 20 名の実績であるが、2名の削除で 18 名となった。

団体登録の年度推



個人登録の年度推

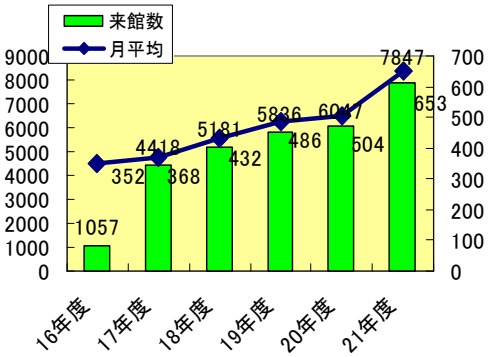


(3)センターの利用者

	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
来館者数	1,057 名	4,318 名	5,181 名	5,836 名	6,047 名	7 ,847 名
会議人員数	245 名	912 名	974 名	1,565 名	1,354 名	3,354 名
相談者数	103 名	325 名	499 名	326 名	277 名	225 名
印刷作業人数	151 名	894 名	1,426 名	1,400 名	1,354 名	1,373 名
その他来館者数	558 名	2,187 名	2,282 名	2,545 名	2,108 名	2,895 名

※平成 17 年 1 月 5 日開設からの来館人員:30, 386 名

来館者数の年度推移



2. 相談機能の向上

（1）相談・マッチング実績　総数 226 件

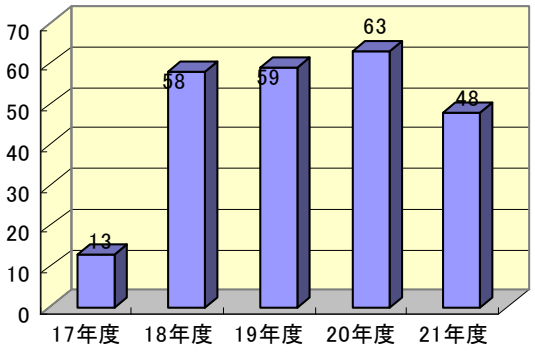
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
相談組数	28 組	138 組	384 組	237 組	213 組	195 組
マッチング件数	1 件	12 件	58 件	59 件	63 件	48 件

※安城市民活動センターの評価尺度の一つと考え、親身な相談対応が更なる
幅広いマッチング活動に結びついてゆく。

第一四半期実績 10 件（10 件）
第二四半期実績 10 件（20 件）
第三四半期実績 13 件（33 件）
第四四半期現在 15 件（48 件）

※前年実数値に未達成
要因としてパソコンへの回答、質問事項への
回答をマッチング内容から外した。

マッチングの年度推



Ⅲ. 実施したイベント

1. わくわくサロン

（1）第 26 回わくわくサロン
日　時：平成 21 年 5 月 31 日（土）18：30～
場　所：秋葉いこいの広場　レストハウス　多目的ホール
ゲスト：NPO 法人　地域福祉サポートちた
　　代表　松下　典子　氏
参加数：30 名
内　容：“知多方式”といわれる地域福祉とは
　　誰もが自分らしく生きていける社会をめざしてを
　　テーマに活動の想いを語って頂いた。

（2）第 27 回わくわくサロン
日　時：平成 21 年 7 月 19 日（日）18：30～
場　所：秋葉いこいの広場　レストハウス　多目的ホール
ゲスト：愛知RB代表　高桑　俊康　氏
参加数：21 名
内　容：災害復興支援におけるバイクの活用！
　　いつものバイクが！その時、大きな力になると、
　　熱く語って頂いた。

(3)第 28 回わくわくサロン

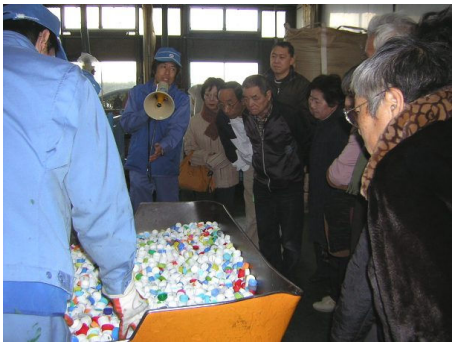
日　時:平成 21 年 10 月 17 日(土)18:30～
場　所:秋葉いこいの広場　レストハウス　多目的ホール
ゲスト:安城学園高等学校　校長　坂田　成夫　氏
参加数:29 名
内　容:響きあう学校　“まちと学校”
無限の可能性を持った若者が大人へ育ってゆく過程を大切にした学校教育に取り組んでいる。
特に、真心・努力・奉仕・感謝の四大精神を生かした教育の大切さを熱く語って頂いた。

(4)第 29 回わくわくサロン

日　時:平成 21 年 11 月 28 日(土)19:00～
場　所:秋葉いこいの広場　レストハウス　多目的ホール
ゲスト:あんき会の皆さん
(あんき会＝安城市自治基本条例を考える市民会議)
参加数:34 名
内　容:条例ってオモシロイ
今回のサロンはいつものように一人の方にご講演いただくのではなく、チームでいらしていただき発表いただくというちょっと変わったスタイルをとりました。
寸劇を取り入れるなど「条例」という硬い話題をやわらかく理解いただけるようにされていて、オモシロイの面白さが伝わったかと思います。

(5)第 30 回わくわくサロン

日　時:平成 22 年 1 月 29 日(金)13:30～
場　所:フジイ化工㈱
ゲスト:代表取締役　藤井達雄　氏
参加数:24 名
内　容:分ければ資源！価値ある資源へ
わくわくセンターをとび出してフジイ化工さんのエコを現地・現場・現物で学びに出かけた、出前サロンを開催した。小さなキャップが世界の子供を救うポリオワクチンの原資をしっかりと観察できました。



(6)第 31 回わくわくサロン

日　時:平成 22 年2月6日(土)18:30～
場　所:秋葉いこいの広場　レストハウス　多目的ホール
ゲスト:赤堀　隆　氏　(愛知県青年の家　所長)
参加数:14 名
内　容:シニア世代の生きがいをもとめて
～科学実験キャラバン隊を通して～
赤堀さんは元学校の先生、しかも「理科」ではなく「社会科」がご専門とのことでビックリ！だからこそ返って子ども達に、「キャラバン隊」を通して

「新鮮な感動・驚き」を「分かりやすく」伝えられるのではないだろうか。仕事、趣味、ボランティアのバランスを上手にとって、「シニア世代の生きがい」を確実に体得されているのがよく理解できるサロンだった。

2. スキルアップ講座

(1)第 18 回スキルアップ講座
日　時:平成 21 年 6 月 27 日(土)18:30～
場　所:秋葉いこいの広場レストハウス多目的ホール
講　師:NPO 愛知ネットスタッフ
　　舟橋　正浩　氏
参加数:21 名
内　容:活動の幅を広げる、新しいつながりを作ってみよう
　　活動にインターネットのツールを活用した実務講座

(2)第 19 回スキルアップ講座
日　時:平成 21 年 9 月 26 日(土)18:30～
場　所:秋葉いこいの広場レストハウス多目的ホール
講　師:あいちモリコロ基金サポート事務局
　　中尾　さゆり　氏
参加数:18 名
内　容:助成金チャレンジ講座
　　初めて助成金を申請する人のために、「助成金ってなに」「団体に合った助成金の探し方」「申請書を書く際のコツ」等分かりやすく教えて頂いた。

(3)第 20 回スキルアップ講座

日　時:平成 21 年 12 月 20 日(日)9:00～
場　所:秋葉いこいの広場レストハウス多目的ホール
講　師:桜井凧保存会の皆さん
　　鈴木 敏雄　氏　他 5 名
参加数:16 名
内　容:桜井凧づくりに挑戦
　桜井凧保存会の皆さんを講師にお迎えして、福助凧を制作した。午前・午後にかけての長丁場にもかかわらず、皆さん製作に没頭された。
　凧を完成させた後には秋葉公園で凧揚げにも挑戦。「桜井凧の特徴・作り方がよく理解できた」「自分の作った凧で凧あげができてうれしい」などの感想を頂いた。

(4)第 21 回スキルアップ講座

日　時:平成 22 年2月 25 日(木)13:00～
場　所:市内で活躍するNPOの現場を体験
体験先:①障がい者福祉サービス　生活介護事業
　　ポテトハウス
　②特定非営利活動法人　あんぐる
参加数:19 名
内　容:安城NPO訪問バスツアー
　最初の訪問先は社会福祉法人ポテト福祉会さんが運営する障害者福祉サービスの場「ポテトハウス」を訪ねました。代表の黒川久美子さんに活動内容や現在の福祉制度が抱える課題をお聞きしました。その後、施設内を見学しました。
　次に訪れたのはNPO法人あんぐるさんが運営する「あんぐる cafe」。市民交流の場をめざしての開設。ランチの提供やイベント開催など、今の形があるのはボランティアさんのおかげと代表の後藤喜代子さんが話してくれました。

「ポテトハウス」

「あんぐる café」

3. 交流会

『わくわく交流会 2010』

日　時:平成 22 年2月 14 日(日)　13:00～
場　所:秋葉いこいの広場レストハウス多目的ホール
参加数:48 名　　20 団体
内　容:(1)ミュージックベルの会“すずらん”による演奏
　(2)安城市民交流センターの概要
　(3)安城市民交流センター期待マップづくり
　(4)交流会(名刺交換、活動紹介等
　わくわく交流会 2010 を 2 月 14 日(日)13:00 ミュージックベルの会“すずらん”さんのハンドベルが奏でる音色でオープニングとなりました。その後、新設された安城市民交流センターの概要をはじめ、名刺交換、安城市民交流センターの期待マップづくりとその発表とプログラムを

進めました。参加された皆さんは時間の許す限り、「わくわく交流会 2010」の中で多くの人たちと歓談、情報交換を積極的に展開されていました。そして、新設安城市民交流センターに夢を膨らませて交流会の幕を閉じることが出来ました。

4. その他

『わくわくミニ講座』

～手づくりメニューでスキルの幅を広げよう～

（Ⅰ）ハンカチでつくるブローチ（定員 10 名）
- 平成 21 年7月 23 日（木）10:00～
- 指導者：吉野　恵子さん（家庭倫理の会）
- 参加数：6名

（2）ネクタイでつくるトンボブローチ（定員 10 名）
- 平成 21 年9月 17 日（木）10:00～
- 指導者：金田　明子さん
- 参加数：7名

Ⅳ. 今後の計画・残された課題

1. 安城市民活動センターの市民交流センターのスムースな運営、展開。
- 平成 22 年 3 月 26 日　内覧会
- 平成 22 年 3 月 27－31 日秋葉いこいの広場　安城市民活動センター→安城市民交流センター移転
- 平成 22 年 3 月 31 日まで秋葉いこいの広場　安城市民活動センター・レストハウス運営
- 平成 22 年 4 月 1 日安城市民交流センター運営開始。

●秋葉いこいの広場秋葉レストハウス

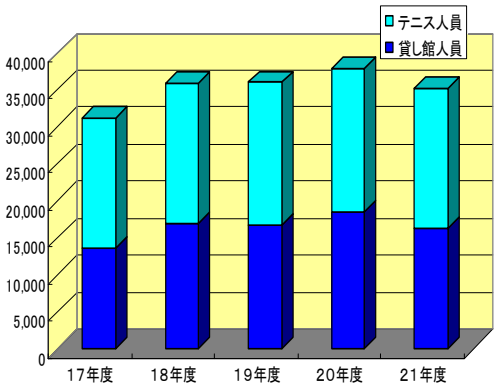
Ⅰ．実施概要

(1)業務名:秋葉いこいの広場　レストハウス管理運営委託管理
(2)管理に関する業務:レストハウス貸し館、テニスコート受付管理
(3)利用者に対するサービス:自主事業の実施
(4)実施期間:平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

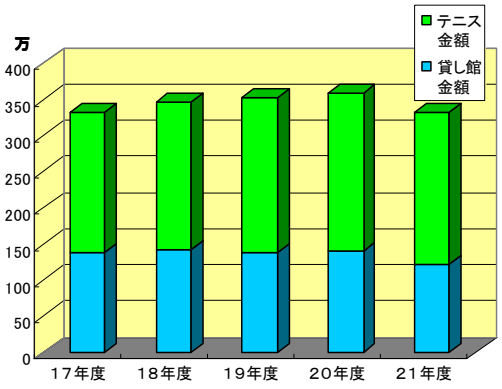
Ⅱ．目標・計画と実績

レストハウスの実績値

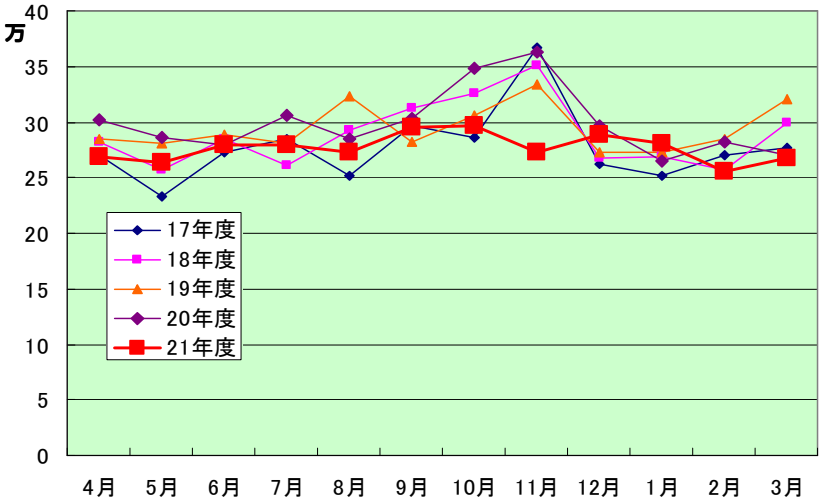
(1)利用者人員の推移



(2)売上げ金額の推移



(3)月別売上げ金額の推移



※1　利用者は前年実績の93%、貸館利用者の減(不景気要因か)
※2　収入金額も前年累計93%と減少にある。景気低迷による
アルバイト面接の減。(営業料金で影響大)※3　テニス主流にあるが横ばい。

Ⅲ．レストハウス事業

「第３回　秋葉チャリティーテニスカップ」開催

日時：平成 21 年 10 月 25 日（日）
会場：秋葉レストハウス
　　テニスコートＡ，Ｂコート
種目：男子ダブルス・女子ダブルス
　　午前女子部　12 組
　　午後男子部　11 組
試合：ブロックべつ予選
　　ブロック１位の決勝トーナメント
参加費：１チーム　1,000 円
寄　付：合計 28,330 円
　　「安城善意銀行へ」参加費と募金

午前女子の部優勝・準優勝者

午後男子の部優勝・準優勝者

大会を盛り上げる観客

おしるこも出ました。

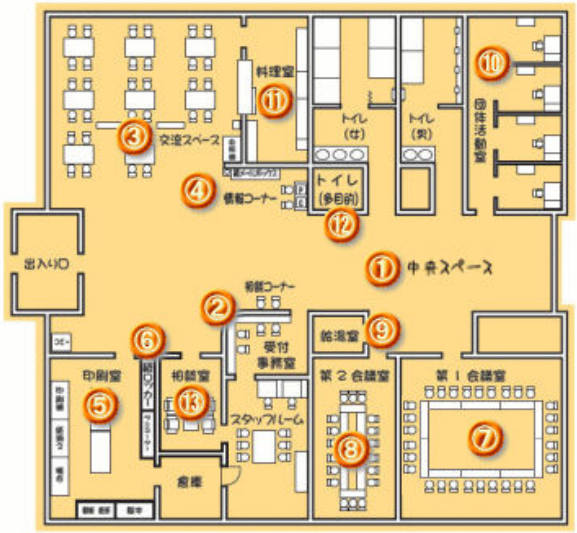
●大府市民活動センター【コラビア】

センター外観

センター概要

場　　所：大府市森岡町４丁目８番地
電　　話：0562-44-8500
ファクス：0562-44-8511
E－mail：COLLABIA@MA.MEDIAS.NE.JP
U　R　L：HTTP://WWW.MEDIAS.CO.JP/~COLLABIA/
開館時間：９時～22 時
休　館　日：毎週月曜日、お盆(8 月 13,14,15 日)年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)
主な施設：

1. 中央ロビースペース
2. 受付・相談窓口(事務室)
3. 交流スペース
4. 情報コーナー
5. 印刷室(作業室)
6. 貸ロッカー
7. 第1(大)会議室
8. 第2(小)会議室
9. 給湯室(会議室脇)
10. 団体活動室(インキュベート・オフィス)
11. 料理室(ワンデイシェフ用)
12. 多目的トイレ
13. 相談室



1. 中央ロビースペース：エントランスから見渡すことのできる、広々としたスペースです。絵画や写真などの作品を展示したり、ちょっとしたおしゃべりや談話スペースとしても利用できます。
2. 受付・相談窓口：コラビア・スタッフ2名が常駐します。
3. 交流スペース：だれでも、予約なしに自由に利用できるスペースです。「ワンデイシェフ」営業日には、「日替わりランチスペース・こらび庵」に早がわり！！
4. 情報コーナー：中央ロビーを挟んで、受付・相談窓口の向かい側にある情報コーナーです。インターネットに接続できるパソコンが2台あって、予約なしにご利用できます。
5. 印刷室(作業室)：印刷室には、印刷機、紙そろえ機、裁断機、帳合機、紙折り機、製本機などがそろっています。印刷機は、黒、赤、青色のインクから選ぶことができる最新鋭機です。それぞれ版を差し替えることで3色刷りもできます。
6. 貸ロッカー：各団体さんの持ち物(用紙、筆記用具など)を保管することができます。
7. 第1(大)会議室：机が10、イスが30、ホワイトボードを備えています。会議室にもインターネットへ

の接続口があり、どこからでもインターネットに接続できる環境が整っています。

8. 第2(小)会議室:机が6、イスが18、ホワイトボードを備えています。

9. 給湯室(会議室脇):会議室をご利用の際に必要な給湯室です。

10. 団体活動室(インキュベート・オフィス):活動している団体さんに事務所の機能を提供します。パティションで区切られたスペースが4区画あり、机、イスとキャビネットに、インターネットの接続口と電話の接続口があります。

11. 料理室(ワンデイシェフ用):おもにワンデイシェフの皆さんが利用しています。コンロが2か所、シンクが2か所あり、いろいろな食器が30人分揃っています。数人が一度に料理することができます。ご利用いただくには、ワンデイシェフとしてご登録いただき、検便などをしていただく必要があります。詳しいことは、スタッフまでお尋ねください。

12. 多目的トイレ:電動車イスでも十分に回転できるスペースを確保した、バリアフリーデザインのトイレです。

13. 相談室:市民活動、ボランティア活動に関する相談業務に利用します。通常は貸し出しをしておりません。

14. スタッフルーム:スタッフのための事務・作業室です。

●使用料金・利用料金

使用料区分	単位	金額	利用料区分	単位	金額
第1(大)会議室	1時間	100円	白黒コピー	1枚	10円
第2(小)会議室	1時間	50円	カラーコピー(A3)	1枚	80円
団体活動室1区画	1か月	10,000円	カラーコピー(その他)	1枚	50円
※団体発足後、3年以内まで		5,000円	印刷機(マスター代)	1製版	50円
ロッカー1区分	1か月	200円	印刷機(インキ代)	1枚・色	1円

Ⅰ. センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

(1)業　務　名 : 大府市民活動センター指定管理業務

(2)事業の目的 : 大府市協働のまちづくり推進条例に基づき、市民活動の健全な発展を図る

※市民活動:市民等が自主的に参加して自発的に行う地域社会に貢献することを目的とする活動をいう。ただし、次に掲げる活動を除く。

ア 営利を目的とする活動

イ 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを目的とする活動

ウ 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを目的とする活動

(3)実 施 期 間 ： 平成21年4月1日(水)～平成24年3月31日(土) までの3年間

2. センターの任務

(1)市民活動に関する相談及び援助に関すること。

(2)市民活動に関する情報の収集及び提供に関すること。

①施設内における展示等による情報提供の企画・運営

②センターホームページの維持・更新

③情報誌の企画及び発行(年間4回程度)

④メールマガジンの企画及び発信(月 1 回程度)

⑤各種資料・図書等の収集及び整理並びに掲示、配架

(3)市民及び市民団体等の相互交流事業の企画・運営

(4)コラビアまつり(センターまつり)事業の実施

(5)大府市主催事業(講座、セミナー、講演会等)の申込受付関連業務の実施

(6)ワンデイシェフ方式(要:飲食店営業許可証及び菓子製造業証)による喫茶・飲食の提供

(7)施設の利用許可等に関すること。

①センターの利用登録及び施設(印刷室・会議室・ロッカー・メールボックス)の貸出し。

②使用料の収受(日々集計、市への報告、市指定口座への入金業務)に関すること。

③施設及び設備の維持管理に関する業務施設の適正な維持管理にあたっては、常に良好な状態を保つように努めること。

1)管理運営業務の対象となる施設の維持管理

2)機械設備等の保守管理

(冷暖房機器保守管理、自動ドア保守管理、セキュリティシステム、建物・設備保守管理)

④施設の清掃に関すること。

快適な環境を保つために、施設の清掃及び鍵の管理等の日常の維持管理を行うこと。

⑤夜間・休業日における警備を行うこと。

随時施設内外を巡回し安全の確保を図ること。閉館時については、機械警備を行うこと。

⑥駐車場の管理(利用者への案内・整理等の実施)に関すること。

⑦センターの利用実績及び業務実施状況報告書の作成

⑧その他

1)緊急時対策・防災対策・防犯対策について、マニュアルを作成し職員の指導を行う。

2)衛生管理については、法令を遵守した対応マニュアルを作成し、職員の指導を行う。

3)個人情報保護については、大府市個人情報保護条例を遵守するとともに、職員に徹底を図ること。

4)大府市環境方針に従うこと。

5)その他、センター及び設備の管理に必要と認められる業務。

Ⅱ. 目標と実績

狙い:指定管理業務が円滑に実施できる体制を構築し、市民に存在を認識されるセンターをめざす。
目標: 初年度登録団体数を100団体以上確保する。
重点施策
1. 指定管理業務が円滑に実施できる(スタッフが役割を分担する)体制を構築する
2. 市民に広く認識してもらうような広報活動を主眼においた活動を展開する
3. ワンデイシェフシステムとして、「日替わりランチスペースこらび庵」を立ち上げ、稼働させる

開館当初、内部業務をスタッフ全員が理解し、スムーズな運営(会議室などの予約の受け付から使用料金、利用料金の収受と納付、管理およびメルマガ、広報誌の発行)ができるようにすることを目標にした。

8月に入り来館者数は日当たり 20 数名程度から 30 数名程度に増えた。会議室の利用も、夏休み以降順調に伸び始めた。しかしながら、印刷室の利用は少ない状況である。

9月に開始したワンデイシェフスペース「こらび庵」では、現在9グループのワンデイシェフグループが登録されていて、月に1、2回程度ずつ料理を提供している。各月の営業日数は、おおむね12日程度となっている。まだまだフル営業(火曜日から土曜日までの週5日営業)できる状況にはなっていないが、順調に推移し、固定客も出始めている。今後は、1日当たり15～20食程度を、無理なく提供できるようにしていきたいと考えている。

登録団体を対象としたNPO交流会(2月21日)と、一般市民と対象としたコラビアまつり(3月14日)との2つの大きなイベントを実施した。さらに、大府市協働促進課と協働して「青春大学」に取り組んだ。青春大学とは、会社を定年退職した、あるいは退職間際の男性を対象に、地域デビューを勧める事業である。今年度は、協働促進課からの要請もあり、大府市社会福祉協議会、NPO法人さわやか愛知およびコラビアが連携して、講義形式の講座ばかりではなく、作業体験や業務経験(インターンシップ)できる14のコースを用意したところ、予想外の応募があった。次年度以降も開校して行くことになった。

※大府市民活動センターコラビアの稼働実績

	目 標	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
総来館者数	10,000 人	2,047 人	4,762 人	7,804 人	11,471 人
相談件数	―	66 件	117 件	128 件	169 件
団体登録	100 団体	63 団体	99 団体	117 団体	142 団体
個人(Web)会員	―	21 人	30 人	43 人	50 人

Ⅲ. 実施したイベント

間	車座集会	スキルアップ講座	その他イベント	合 計
第1・2四半期	2	3	5	10
10月度	2	1	0	3
11月度	2	0	2	4
12月度	2	1	1	4
第3四半期	6	2	3	11
1月度	2	0	0	2
2月度	1	0	2	3
3月度	1	0	2	3
第4四半期	4	0	4	8
合 計	12	5	12	29

1. 車座集会

(1)愛知県におけるNPOと行政の連携について
日　時:2009 年 7 月 24 日(金)18:00～20:00
場　所:大府市民活動センター　会議室
参加者:27名
講　師:愛知県県民生活部社会活動推進課
　　課長　市原兼久氏
内　容:NPOに参加したい方、NPOを立ち上げたい方など、NPOに関心がある方々に、愛知県が推進しているNPOと行政の協働について、お話をいただきました。

(2)こらび庵で食育について考えよう
日　時:2009 年 8 月 29 日(土)11:00～13:00
場　所:大府市民活動センター交流スペース(こらび庵)
参加者:36 名
講　師:食生活改善推進委員の方々
内　容:食育をテーマにした紙芝居を見たあと、親子でランチを楽しみました。

(3)大府市ボランティアセンターの活動について
日　時:2009 年 10 月 17 日(土)19:00～21:00
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:27 名
講　師:大府市社会福祉協議会
　　ボンランティアセンター　櫻木洋介氏
内　容:大府市社会福祉協議会のボランティアセンター担当の櫻木さんを講師に迎え、ボランティアセンターの活動や、今後の大府市のネットワークづくりについて話をうかがいました。そのあと、全員で各自の課題などを話しうことができました。

(4)本場のプーアル茶を楽しみましょう
日　時:2009 年 10 月 24 日
場　所:大府市民活動センター交流スペース
講　師:中京女子大学　山本経天先生
内　容:山本経天先生からプーアル茶のお話しをお聞きしました。参加者は11名。お茶ももちろんおいしかったのですが、お話も面白く、参加者からはぜひ第2弾、第3弾を企画して欲しいと声が上がりました。

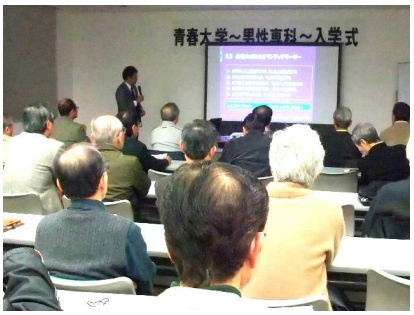
(5)冬のイルミネーションと国際交流にかける思い
日　時:2009 年 11 月 7 日(土)19:00～21:00
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:22 名
講　師:大府市国際交流協会
事務局長　深谷久夫氏
内　容:ホームステイボランティアを長年続けていらっしゃる深谷久夫さんをお迎えし、ご自宅のイルミネーションにかける思いや、始めたきっかけ、ホームステイボランティアなどを通じた国際交流のお話をうかがいました。

(6)福田直樹さんチェンバロ・ワンコイン・コンサート
日　時:2009 年 11 月 22 日(日)14:00～16:00
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:22 名
講　師:ピアニスト　福田直樹氏
内　容:福田さんは、養護施設や学校などを訪問し、演奏活動を展開しています。ここコラビアでもチェンバロ・コンサートを開いて頂きました。チェンバロの演奏が終わった後、ケーキとお茶を頂きながら、ロココ時代の貴族の気分に浸りながら音楽にまつわる色々なお話を伺いました。

(7)ワンデイシェフ交流会
日　時:2009 年 12 月 9 日(月)11:30～14:30
場　所:大府市民活動センター交流スペース(こらび庵)
参加者:ワンデイシェフ20名＋スタッフ9名
内　容:ワンデイシェフの皆さんから、他のシェフの方の料理が食べてみたいという声がありました。そこで、日ごろお世話になっているワンデイシェフの皆さんをご招待して交流会を開催。シェフの皆さんにはランチ券を贈呈し、他のシェフさんの料理を楽しんでもらうことにしました。

(8)本場のウーロン茶を楽しみましょう
日　時:2009 年 12 月 12 日(土)
場　所:大府市民活動センター会議室
講　師:中京女子大学　山本経天先生
内　容:中国茶の中でもなじみのあるウーロン茶ですが、経天先生に入れていただいたウーロン茶は、香りも味わいも深いものでした。楽しいお話も手伝って、ゆったりといい時間を過ごすことができました。

(9)青春大学入学式
日　時:2010 年 1 月 15 日(金)
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:入学希望者46名＋講師・スタッフ14名
内　容:リタイアした男性、あるいはリタ イア直前の男性を対象に青春大学【男性専科】の入学式が行われました。初めに、刈谷市民ボランティア活動支援センターのセンター長牧野清光氏から、「地域の扉を ノックしてみよう！」と題した講義をいただきました。講義の後は、14コースのプログラムの説明があり、それぞれ履修申告を提出しました。



(10)青春大学「ボランティア・市民活動について学ぼう！」
日　時:2010 年 1 月 29 日(金)
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:履修者3名＋講師2名(社協:櫻木、大野)
内　容:少数精鋭、大変熱のこもった授業となりました。生徒の方々は熱心に先生の話に耳を傾け、ボランティアや市民活動に関する考えを整理することができました。自分で何ができるのか、しっかりと考えることができたとおっしゃっていました。

(11)ワンコインコンサート:マンドリンとギターのデュオ
日　時:2010 年 3 月 21 日(日)
場　所:大府市民活動センター会議室
講　師:名古屋マンドリン合奏団の山田明美氏加賀修一氏
参加者:35名
内　容:天空の城ラピュタや、ルパン3世のテーマなど、美しい音色が館内に響き渡りました。今回は、ワンデイシェフの方に作って頂いた手作りのケーキをいただくこともできました。美味しいケーキと美しい音楽を、皆さん堪能されていらっしゃいました。

2. スキルアップ講座

(1)元気365習得講座
日　時:2009 年 6 月 4 日(木)～
場　所:大府市民活動センター情報コーナー
参加者:数人(市役所各課の担当者)
講　師:センタースタッフ
担当者:田中、水谷、大野
内　容:大府市民活動情報サイト(元気365)の使い方を説明
1)　文化国際課多文化共生係(6 月 4 日)
2)　都市計画課計画係・緑化公園係(6 月 30 日)

(2)夏休み書道体験
日　時:2009 年 7 月 30 日(木)
場　所:大府市民活動センター会議室
参加者:14 人
講　師:石ヶ瀬書道会の皆さん
内　容:コラビアをご利用いただいている石ヶ瀬書道会さんのお力を借り、「夏休み書道体験！～夏休みの習字の宿題にトライ！～」を行いました。書道会の皆さんの丁寧な指導を受け、参加した小学生も真剣に書に取り組むよい機会となりました。

（3）おもしろ科学実験
日　時：2009 年 8 月 26 日（木）
場　所：大府市民活動センター会議室、中央ロビースペース
参加者：26 人
講　師：おもしろ科学実験キャラバン隊の皆さん
内　容：身近な道具を使い不思議な実験をすることで、子どもたちに科学・理科に興味を持ってもらう参加型講座を開きました。当日参加した子どもたちは、真剣な眼差しで実験に取り組みながらも、時には驚き、笑い声や驚きの声が上がり、とても賑わいました。

(4)ハロウィンウィーク トールペイント
日　時:2009 年 10 月 17 日～31 日
場　所:大府市民活動センター会議室
講　師:高木典子さん
内　容:第 1 弾(10 月 17 日):親子でトールペイントにチャレンジしてみよう(10 月 17 日に実施、8 組 17 人が参加)
第 2 弾(10 月 18 日～30 日):ランチスペースをハロウィンで飾ろう！折り紙でカボチャや魔女を折って、交流スペースを飾りました。

(5)クリスマスウィークトールペイント
日　時：2009 年 12 月 13 日（日）
場　所：大府市民活動センター会議室
講　師：高木典子氏
内　容：トールペイントのクリスマスバージョンを、皆で楽しみました。今回は、外国から大府市にホームステイでやってきた仲間も参加してくれました。コラビアも、今日はちょっとだけインターナショナル！！でした。

3. 特別イベント 「コラビア交流イベント」

(1)石ヶ瀬小学校の 3 年生が「コラビア」を施設見学
日　時:2009 年 6 月 11 日、12 日
場　所:大府市民活動センター
参加者:石ヶ瀬小学校 3 年生の皆さん
内　容:石ヶ瀬小学校の 3 年生が、総合学習の一環として「コラビア」の施設見学にやってきました。「コラビア」の真新しい会議室、キッチン、印刷室など、施設を一通り見学してもらいました。

(2)グリーンカーテンを設置
日　時:2009 年 6 月 15 日
場　所:センター西側窓の下
参加者:子ども文化交流会の林さん
内　容:団体活動室をご利用いただいている子ども文化交流会の林さんが、ボランティアでグリーンカーテンを設置していただきました。グリーンカーテンばかりではなく、コラビアの周りの花なども植えていただきました。

(3)ワンデイランチスペース「こらび庵」オープン
日　時:2009 年 9 月 1 日(火)11:00～
場　所:大府市民活動センターこらび庵
参加者:日頃からコラビアを利用されている方々
内　容:「こらび庵」のオープニングイベントとして、大府市の姉妹都市ポート・フィリップ市から来日中のジェーン・ダーレンバーグさんをワンデイシェフに迎え、ランチを食べながらオーストラリア文化についてご紹介していただきました。

(4)第 27 回大府市福祉健康フェアに出展・参加
日　時:2009 年 9 月 27 日(日)9:00～16:00
場　所:石ケ瀬会館
内　容:大府福祉健康フェアにコラビアブースを出展しました。コラビアのパンフレットや情報誌「こらびぃ」の創刊号、日替わりランチスペースこらび庵の10月ランチメニュー、第3回車座集会のパンフレットを来場者に直接配布しました。若い親子連れが、真剣に掲示物を読んでくれたときには、説明に熱が入ってしまいました。

(5)グリーンカーテンの種とり大会
日　時:2009 年 9 月 27 日(日)15:00～16:00
場　所:大府市民活動センター西側窓の下
内　容:子ども文化交流会の林さんに植えていただいたグリーンカーテンの種を、コラビアにいつもやってくる子どもたちと一緒にとりました。この日も、林さんがボランティアでお世話いただき、子どもたちも楽しんでいました。

(6)森岡公民館祭りに協力
日　時:2009 年 10 月 31 日、11 月 1 日
場　所:大府市民活動センター
参加者:400 名以上
内　容:コラビアのお隣さんの森岡公民館祭りが開催され、コラビアも森岡公民館に協力しました。駐車場や会議室、交流スペースを使って、子どもたちの作品展示やパン、コーヒーの販売ブース、市役所環境課のブース、ボーイスカウトのテントなどが並びました。コラビアでもハロウィンウィーク第 3 弾のイベントとして、31 日には子どもたちにキャンディを配りました。

(7)エコキャップ:北山公民館からフジイ化工へ
日　時:2009 年 11 月 20 日(金)
場　所:大府市民活動センター正面ロビー
参加者:北山公民館長、フジイ化工(株)の藤井社長
内　容:北山公民館で1年半かけて集めたペットボトルのキャップをフジイ化工(株)さんへお渡しすることになりました。その贈呈式を縁あってコラビアで行いました。集まったキャップの量は重さにしてなんと 121.64Kg(48,656 個分)、ワクチンとして 61 人分でした。

(8)コラビア交流会
日　時:2010 年 2 月 21 日(日)
場　所:大府市民活動センター会議室・交流コーナー
参加者:登録団体メンバー63名＋スタッフ10名
内　容:登録団体さん相互の交流を目的に、活動内容の紹介、活動マップづくり、ワンデイシェフの皆さんが提供(ワンデイシェフさんは、食の提供を通して市民活動を展開している)したランチパーティと名刺交換会を開催しました。オープニングは、レクリエーションを利用した導入の仕方を、参加した団体の皆さんに体験していただきました。

(9)コラビア来場者10，000万人突破
日　時:2010 年 2 月 27日(土)
場　所:大府市民活動センター
参加者:おおぶ防災ボランティアグループの佐藤さん
内　容:大府市民活動センター【コラビア】がオープンして277日目の2月27日午前11時30分、おおぶ防災ボランティアグループの佐藤様がご来館1万人目として来館されました。ご来館1万人達成記念に、コラビアより花束と記念品(こらび庵のラン　チ券)を贈呈させていただきました。

(10)コラビアまつり
日　時:2010 年 3 月 14 日(日)
場　所:大府市民活動センター
参加者:350 名
内　容:「つなぎ・つながる・みんなの手」をテーマに、コラビアまつりが行われました。登録団体さんによるパフォーマンスショーやエコキャップアート、人型メッセージカード、おさがりハンガーコーナー、遊防災コーナーに、ブーめんとお汁粉をふるまいました。

(11)こらび庵:進級おめでとうランチ
日　時:2010 年 3 月 23 日(火)
場　所:大府市民活動センターランチスペースこらび庵
内　容:日ごろコラビアの交流スペースを勉強に利用している学生さんをメインターゲットに、進級おめでとうランチを企画しました。ワンデイシェフの「こらびーず」が、ミートローフ・サラダ・スープ・ひじきの煮物とデザートにグレープフルーツのゼリーを提供しました。進級・進学の園児から高校生、保護者の皆様から「おいしかったよ」と嬉しいお言葉をいただきました。

Ⅳ. 今後の課題

本年度は大府市民活動センターが開設され、稼働した初年度である。初年度としては、大府市民活動センター【コラビア】を、市民の方に知っていただくことが前提であり、それはある程度達成できたと考えている(イベントへの参加状況やランチスペースこらび庵の稼働状況より)。この実績の中から、来期への課題を抽出し、来期および来期以降の具体的な行動計画を策定していく必要がある。

来期以降は、「つなぎ・つながる・みんなの手」をメインテーマとして掲げ、市民の相談に対応できるスキルを身につけ、日常業務の精度を向上させて行きたい。そうすることで、「登録団体が元気に活動できる大府」をめざし、コラビアが協働の拠点としての機能を発揮できるような活動を展開していきたいと、センタースタッフ一同考えている。

● 豊橋市民センター、 オレンジ・プラザ

センター概 要

場　　所 ： 豊橋市松葉町二丁目63番地

電　　話 ： 0532－56－5141

ファクス ： 0532－56－5161

E－mail: npo-info@tees.jp

U　R　L ： http://www.tees.ne.jp/~npo-info/

開館時間 ： 9時～21 時

休　館　日 ： 毎週月曜日、年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)

主な 施 設 ：1F 事務室・談話室・障害者用トイレ・公衆電話

2F オレンジ・プラザ

・印刷機、紙折り機、裁断機、ロッカー等

・談話ルーム、会議室、情報コーナー

3F 相談室・ミーティングルーム2室

4F 小会議室(24人)、中会議室(63人)

5F 大会議室(90人)

6F 多目的ホール(99人)

プロジェクター、スクリーン、テレビ、ビデオ、
DVDプレーヤー

豊橋市民センター
カリオンビル

Ⅰ.センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

(1)業　務　名 ：豊橋市民センター、オレンジ・プラザの管理運営委託

(2)事業の目的 ：「豊橋市民センター」
市政と市民の「かけはし」となるべく、市街地の活性化を目的に利用者数および利用率の促進を図る。

「オレンジ・プラザ」
様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民　　の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する

(3)実 施 期 間 ：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日(指定管理＝平成 24 年 3 月 31 日迄)

2. 豊橋市民センター、オレンジ・プラザの任務

「豊橋市民センター」

(1)会議室の予約、利用許可、清掃業務

①予約管理システムの運用、利用許可証の発行・集金、使用後の清掃

(2)施設の維持管理

①施設や備品に関する点検・保全・在庫管理

②施設の施錠、非常時の対応

「オレンジ・プラザ」

（1）情報の収集・提供業務

①「どすごいネット」（東三河ボランティア情報サイト）の管理運営、登録団体の入力作業、サイト利用操作方法の説明など

②豊橋市民センター、オレンジ・プラザのHP、ブログ作成及び維持管理

③メールマガジン及び情報誌（アーリーレポート）等の発行

（2）活動場所の提供業務

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応

②印刷機器等設備の利用に関する事務

（3）意識啓発・普及業務

①意識啓発活動の実施（業務全体を通じて）

②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

（4）人材育成・交流業務

①人材育成のための研修会を企画・運営（スキルアップ講座等）

②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
（NPO・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催）

（5）相談・連絡調整業務

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能（マッチング活動）

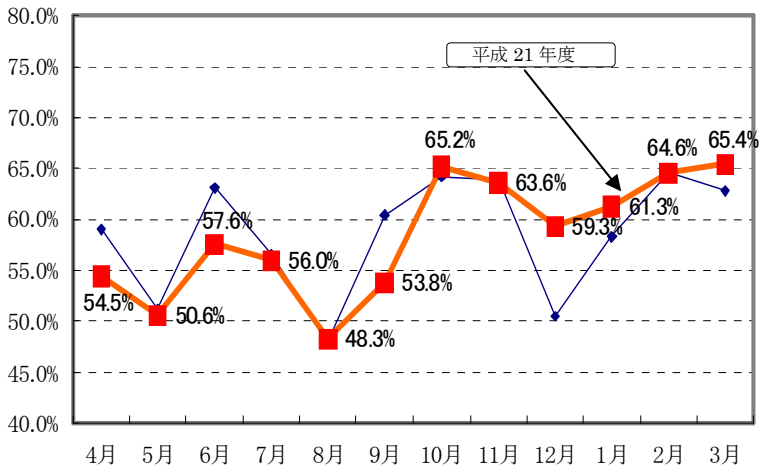
②NPO法人認証取得のための相談への対応

Ⅱ．目標と実績

平成 21 年度　第1～3四半期の実績

		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		
		H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	前年比
市民センター	利用者数	16,208	17,940	16,007	18,874	23,328	21,393	21,047	20,461	102.9%
	利用率	54.2	57.6	52.7	54.9	62.8	59.5	64.8	61.3	105.7%
オレンジ・プラザ	利用者数	863	536	885	829	1,247	1,103	756	540	140.0%
	相談件数	47	19	17	10	23	12	27	4	675.0%
	マッチング件数	5	－	0	－	1	－	5	－	－
	団体登録	35	4	10	2	5	4	3	8	－
	個人登録者	7	－	2	－	2	－	1	－	－

「豊橋市民センター」：稼働率



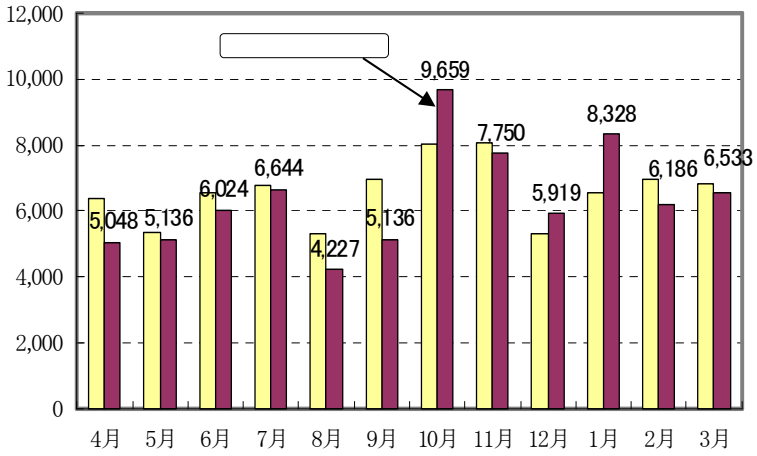
H21：58.5% (+0.17%)

H20：58.4%

6 部屋×3 コマ(午前・午後・夜間)×稼動数に対して、利用された部屋の割合

※連休月(5、8、12 月)は、稼働率が極端に低下する特徴があるため、その時期にどれだけ集客できるかがポイントである。
前期は固定客が減少したことから稼働率が減少した。しかし後期に営業、集客対策により挽回することができた。

「豊橋市民センター」：利用者数



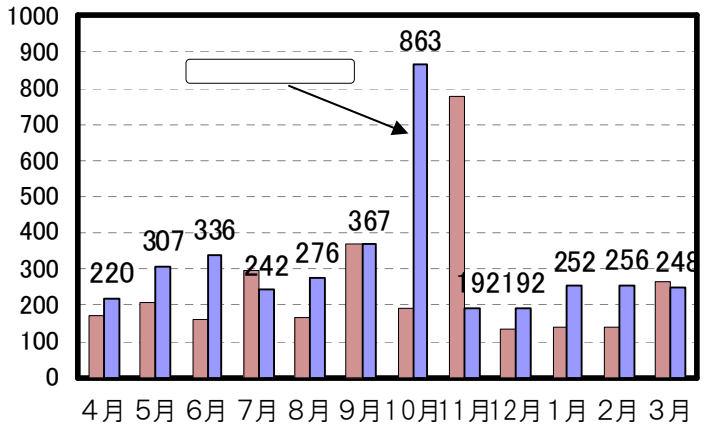
H21：76,590 人 (-2.6%)

H20：78,668 人

利用延べ人数。
1団体 10 名が会議室を全日使用した場合は 30 名として計算

※部屋の種類は小さい会議室(10 名定員)の利用が多く、多目的ホール・大会議室の夜間利用者数が少ないことが昨年度を下回った要因です。但し、10 月のオレンジ・フェスタ及び 1 月の新春展示会のイベントでは昨年を上回る方がご利用になった。

「オレンジプラザ」：利用者数



H21:3,751 人 (+24.7%)

H20：3,008 人

登録された市民活動団体が市民活動目的で 2 階スペースを利用した数(原則無料)

※昨年度とイベント時期が異なっていたため、10 月と 11 月で大きな差となったが、全般的に利用者数は増え、利用頻度も多くなってきた。特に印刷利用団体と打合せ利用団体が多く、定期的に利用される団体が多くなった。

【第1・2四半期】
平成21年4月より指定管理者として豊橋市民センターおよびオレンジ・プラザの運営を開始。当初は豊橋市で活動する市民活動団体（NPO）が分からないため、団体を知り、情報収集及び情報交換できる場が必要であった。さらにこれまで他のセンターでも行ってきた車座集会、オレンジ・フェスタを行うことで、お互いが協力し合える仲間であるという意識を持ってもらえることが次年度につながる最初の活動だと考えている。

【第3四半期】
施設利用について、豊橋市民センターは第1、第2四半期の利用は昨年比を下回っていたため、12 月にパンフレット配布、会議室ナビへの登録等の営業活動により、第3四半期は利用者数および利用率ともに約5%昨年より上回ることができた。今後も利用率アップを維持するための対策を順次実施していく予定である。
また、オレンジプラザの利用者は昨年を上回る状況が続いているが、年度中盤過ぎから相談件数、マッチング件数、団体登録件数が減少している。オレンジプラザの本来の業務に対するPRを行い更なる利用者増につなげていきたい。

【第4四半期】
1 月、3 月と昨年度、利用の落ち込んだ時期に本年度の利用率が上がったことで、昨年度の利用率レベルが維持できた。特に会議室ナビや市民センターホームページの改善により、新規の営利団体の利用が増加したことが寄与している。但し、利用5日前の支払いを行わず、当日になっても連絡のないキャンセルもあり、今後は事前の確認をコマめに行い、空きが出た場合に他の利用者への利用促進を図ることで利用率の低下を防ぎたい。また、多目的ホールや大会議室などの大人数を収容できる会議室の夜間利用が少なく、次年度はその対応を図っていく必要がある。
また、オレンジプラザの利用者は、ほぼ毎日の利用があり昨年度を25%近く上回ることができた。前期に比べて相談件数・マッチング件数も増えており、市民活動センターとしての役割が果たせる状況になってきた。しかし、現在登録されている団体でも、まだまだ利用されてない団体もあり、より一層の広報・PR活動が必要と思われます。どすごいネットの利用についても、少しづつではありますが各団体のサイトへ情報が書き込まれるようになってきました。今後はサイトからのイベント申し込みやボランティア募集が双方向で利用していただけるよう、センターでもアドバイスや使い方講習などを積極的に行っていきたいと考えます。

Ⅲ．実施したイベント

1．交流会

(1)イベント名　オレンジ・プラザ交流会
日　時：2009 年 6 月 14 日(日)13:15～16:30
場　所：豊橋市民センター　6F多目的ホール
参加者：32名
内　容：市民活動団体が情報収集・情報交換する「場」と「機会」を作ることを目的とした会

ＮＰＯ・市民活動団体の交流

2. 車座集会

山方さんを囲んで議論する

(1)イベント名　第1回車座集会
日　時:　2009 年 6 月 27 日(土)18:30～20:00
場　所:　豊橋市民センター(オレンジ・プラザ)
参加者:　14名　(NPO関係者)
講　師:　日本ボランティアコーディネーター協会
　　山　方　　元　　氏
担当者:　深谷、野上
内　容:　地域のパズル
　　～ボランティアというピースのはまる場所～
　　というテーマで実施した。

河村さんの講義を熱心に聴く参加者

(2)イベント名　第2回車座集会
日　時:　2010 年 1 月 23 日(土)18:30～20:00
場　所:　豊橋市民センター(オレンジ・プラザ)
参加者:　15名　(NPO関係者)
講　師:　マネーじゅく@豊橋　代表
　　河　村　八　千　子　　氏
担当者:　寺田、楠原
内　容:　助成金申請のツボ　というテーマで実施した。
　　市民活動に必要な助成金獲得のための申請書
　　の
　　書き方のポイントを知ってもらう。

3. スキルアップ講座

Eメールの活用術を学びました

(1)イベント名　第1回スキルアップ講座
日　時:　2009 年 12 月 6 日(土)13:30～15:30
場　所:　豊橋市民センター(オレンジ・プラザ)
参加者:　10名　(NPO関係者)
講　師:　ヘルプデスク代表　「加　藤　賀　唯　　氏」
担当者:　寺田、伊原
内　容:　簡単！メール活用術Eメールの便利な使い方や
　　写真画像の送信方法など、市民活動の実践で
　　使える小技を勉強しました。

デジカメを使った編集方法を学ぶ

(2)ベント名　第2回スキルアップ講座
日　時:　2010 年 3 月 6 日(土)13:00～15:00
場　所:　豊橋市民センター(オレンジ・プラザ)
参加者:　10名　(NPO関係者)
講　師:　オレンジプラザ・スタッフ
担当者:　楠原、野上、藤井、伊原
内　容:　デジカメの基本的な使い方から動画撮影したも
　　のをデータとしてパソコンに取り込んだり、どす
　　ごいネットに情報を掲載する方法を学ぶ。

4. 特別イベント

オレンジ・フェスタ　オープニング

(1)イベント名　オレンジ・フェスタ
日　時:　2009 年 10 月 12 日(月・祝)
場　所:　豊橋市民センター・松葉公園
参加者:　500人
担当者:　スタッフ全員・募集ボランティア
内　容:豊橋市で活躍する市民活動団体同士のネットワークづくり、一般市民に対して市民活動団体をPRする
内　容:①市民活動団体28団体によるの展示・物品販売
②笑い太鼓(NPO)による太鼓演奏
③豊橋VCの会による炊き出し訓練(350食)
④豊橋中消防署の協力による心肺蘇生法指導
⑤講演会(松沢政満氏)
⑥木好きらく会による木工作指導
⑦ストローおじさんによる紙細工
⑧学生ボランティアによるバルーンアート、キーホルダーづくり
⑨チェンソーアート
⑩スタンプラリー
⑪抽選会

オレンジ・フェスタ抽選会

(2)イベント名「メイク　ア　チェンジ・デイ」
(エコキャップ回収活動)
日　時:　2009 年 11 月 22 日(土)
場　所:　豊橋市民センター(オレンジ・プラザ)
内　容:　ペットボトルキャップを集めることで、世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加して、キャップ回収を行った。

集められたペットボトルキャップ

Ⅳ.今後の計画・残された課題

1. 利用者目標の設定

昨年1年間の運営管理の実績に基づき、次年度は更なる利用の向上と効率的な運営を図るため、下記の目標を設定し、それに向けての対策・対応を推進する。特に豊橋市民センター利用については、年度前半の利用が低かったため後半に影響する結果となった。次年度は当初から利用者促進を図って業務を行っていく。また、効率的な施設運営を行うため、今年度に引き続き、費用計上の多い光熱費の低減や印刷物の工夫提案によるインクの節減、その他各種消耗品や備品のムダ使いを低減するなど、業務を実施するそれぞれの場面で節約を図っていく。

オレンジプラザについては、ボランティア情報サイト(どすごいネット)の更なる利用拡大を推進するため、登録団体に対して根気よく操作説明や利用価値の周知を図る。また、ボランティア相談に対して他団体を紹介したり、定期的に相談者への情報提供するなど、心のこもった対応を行う。団体運営に関する相談についても、市民活動に関する専門的な知識を活かして、いっしょに取り組む姿勢を出して団体から信頼される動きにしていく。

「豊橋市民センター」 ・施設利用率の向上(目標:年間59%)
・施設利用者の向上(目標:年間80, 000人)
・省エネ化の推進(光熱費の低減、ムダの排除)

「オレンジプラザ」 ・利用者の10%アップ(目標:年間4, 000人)
・ボランティア情報サイト(どすごいネット)の利用拡大
・マッチング活動の推進(目標:マッチング件数20件以上)

2. スタッフのスキルアップ

オレンジプラザ機能を充実させるためには、スタッフのコーディネート能力の向上が不可欠である。今年度できた「ボランティアコーディネート検定試験3級」に1名のスタッフが合格した。次年度も3級合格者を増やしたり、2級への挑戦も積極的に進めたい。そのほかスタッフ教育の一環として自己啓発及び集合教育などを行い、豊橋スタッフ全員がスキルアップを図っていく予定である。また、特に市民活動支援の事業については、NPO愛知ネットが持つ相互の拠点の人材交流を促進し、各施設の良い点をOJTを通じてオレンジプラザへ取り入れていく予定である。また、スタッフはオレンジプラザに集まる情報(助成金・イベント・講座など)をしっかりと把握して、団体に伝えられるよう情報力をアップさせることも重要だと考えている。そのための情報の整理と掲示をしっかりと行っていく。

・NPO愛知ネットでの集合教育実施
・他団体が行う研修、講座への積極的参加
・スタッフの情報力アップ

●愛フェス２００９

実施概要

日　　時 ： 平成 21 年 9 月 5 日(土)・6 日(日)　10 時～20 時
場　　所 ： 愛・地球博記念公園(モリコロパーク)
U　R　L ： HTTP://IFES.JP/
内　　容 ： npo村・ファンドレイジング
ライブ・ステージ
フードエリア
大学村
公的団体ブース

Ⅰ．愛フェス２００９の業務内容

１．業務名・目的

(1)業　務　名 ： 愛フェス 2009

(2)事業の目的 ： 「楽しむことが、誰かのためになる」をコンセプトに、日本初の大規模ファンドレイジング(資金調達)イベントとして、来場者がイベントを楽しみながら寄付投票を行うという、社会貢献の新しいカタチを発信する。

２．業務内容

(1)愛フェス実施に伴うロジスティックスに関すること。

①当日準備品の輸送
②シャトルバス／駐車場の確保
③公共交通の問題解消
④旅行代理店との調整(宿泊等・地下鉄チケット パッケージ・リニモのチケット)

(2)愛フェス実施に伴う会場に関すること。

①会場全般の管理(エリアレイアウト／記録／撮影／申請／ステージ／ブース／会場設営／エリア進行／ゴミエネルギー)

(3)愛フェス実施に伴う参加者に関すること。

①参加者管理全般(企画／オリエン実施／参加者管理／保険管理／著作権管理／リハーサル)

(4)愛フェス実施に伴う NPO に関すること。

①NPO村管理全般(3日間プログラム／参加NPO管理／研修実施)

(5)愛フェス実施に伴う広報に関すること。

①アーティスト／チケット／祝賀会等調整

②各メディアプレスリリース

③公式ガイド／スポンサー／DVD／各種広告

(6)愛フェス実施に伴う救急に関すること。

①当日緊急時の救急対応

②参加者のメディカルチェック

(7)愛フェス実施に伴うボランティアに関すること。

①当日のボランティアマネジメント

(8)地域愛フェス実施に関すること。

①名古屋ブロック

②東三河ブロック

③尾張ブロック

④知多ブロック

⑤西三河ブロック

Ⅱ. 目標と活動実績

狙い:イベントのキーワードは「共感・感動」とし、来場者に向けて、がんばっている NPO の存在を知り、触れ
ることで、NPO への興味・関心を喚起し、地域社会の課題を知る機会を創出する。
また、出展する NPO 団体に向けて、ファンドレイジング(資金調達)を行うことで、自団体の運営の基と
なる活動資金の獲得を目指す。

目標: 来場者 30,000 人を動員する。

重点施策
4. ファンドレイジングの概念を理解してもらう。
5. 共感・感動を呼ぶ、NPO のプレゼンテーションを行う。

1. 数値実績
愛フェス 2009 の、当日来園者数は、28,527 人と目標 30,000 人に対し、95%の到達状況で目

標未達である。愛フェス来場者数は 14,500 人、投票総数(ファンドレイジング)は 9,178 票であった。
また、NPO 出展団体は 64 団体、その他の団体を含めると 86 団体の出展団体が集まった。

2. その他イベント実績

9 月の愛フェス 2009 以外に、県内 5 ヵ所で地域愛フェス(プレイベント)を実施した。

(1) 名古屋ブロック
(2) 東三河ブロック
(3) 尾張ブロック
(4) 知多ブロック
(5) 西三河ブロック

Ⅲ. 実施したイベント

1. 地域愛フェス

1. 名古屋ブロック:「サマーセミナー」 サテライト会場

日　時：2009 年 7 月 18 日（土）
場　所：名古屋市中区久屋大通広場
主　催：第 21 回サマーセミナー実行委員会
内　容:愛フェス 2009 で行うパフォーマンスコンテスト（ダンス・音楽）の予選
商店街うまいもの市
愛フェス支援アーティストによるライブ
NPO村

2. 東三河ブロック:みなとフェスティバル　サテライト会場

日　時：2009 年 7 月 20 日（日）
場　所：豊橋駅東口
主　催：みなとフェスティバル実行委員会
内　容:愛フェス 2009 で行うパフォーマンスコンテスト（ダンス・音楽）の予選

3. 尾張ブロック:一宮七夕まつり

日　時：2009 年 7 月 25 日（土）
場　所：尾張一宮駅 西口七夕ステージ
主　催：一宮七夕まつり協進会
内　容:愛フェス 2009 で行うパフォーマンスコンテスト（ダンス・音楽）の予選

４．知多ブロック：知多市民活動まつり

日　時：2009 年 8 月 1 日（土）
場　所：半田勤労福祉会館
主　催：ずーっと、私らしくミーティング知多実行委員会
内　容:愛フェス 2009 で行うパフォーマンスコンテスト（ダンス・音楽）の予選

5. 西三河ブロック:安城七夕まつり

日　時：2009 年 8 月 7 日（金）
場　所：安城七夕まつり会場 願いごとステージ
主　催：安城七夕協賛会
内　容:愛フェス 2009 で行うパフォーマンスコンテスト（ダンス・音楽）の予選
愛フェス 2009 の PR ブース(NPO 村ブース、「願いごと」コーナー)

2. 愛フェス2009

日　　時 ： 平成 21 年 9 月 5 日(土)･6 日(日) 10 時 ～ 20 時

場　　所 ： 愛･地球博記念公園(モリコロパーク)

主　　催 ： 愛フェス 2009 開催委員会

共　　催 ： 特定非営利活動法人 NPO 愛知ネット

1. NPO 村･ファンドレイジング

内　容:NPO 出展団体によるファンドレイジングのための、プロモーション活動を行いました。
事前の研修で制作した1分間CMなどで、団体の活動意義や目的などの情報発信を行いました。

2. ライブ･ステージ

内　容：愛フェス開催２日間、朝から夜まで数多くのパフォーマンスが繰り広げられました。
和太鼓のオープニングに始まり、ダンス部門・音楽部門のファイナルコンテスト、愛フェス支援アーティストによるライブ、クロージングは「WE ARE THE WORLD」の合唱で幕を閉じました。

3. フードエリア

内　容：障がい者福祉団体がフードカーやコンテナを出店し、心を込めて食を提供してくれました。
また、愛知県内の自治体や商店街の逸品や特産物を生かしたグルメを持ち寄り、「うまいもの市」を展開しました。おなじみのメニューから、一風変わったメニューまで、来場者のお腹も心も満たした２日間となりました。

４． 大学村

内　容：環境、世界平和を願う学生が、普段の活動の成果やアートなどを披露しました。
また、学生団体により、愛フェスを大いに盛り上げてくれました。

5. 公的団体ブース

内　容:9 つの公的団体が休憩コーナーの前にブースを出展。赤十字、防災関係、行政などがそれぞれ独自のプロモーションを展開し、会場を大いに盛り上げました。

Ⅳ. 今後の課題

本年度が、愛フェスの初年度であり、多くの到達と課題が見えてきた。

まず、到達点であるが、出展した NPO 団体が、自団体のCMを制作する過程で、団体の活動目的や活動意義を捉えなおし、客観的に見直すことができた。それにより、自団体への誇りを持つと共に、自覚と意識を芽生えさせることができた点は団体にとっての到達点である。

一方で、NPO 経営者の視点では、費用対効果の面、ファンドレイジングでの分配金額などで不満が残り、次年度以降の課題として残った。(参加費 6 万円に対し、平均 7 万円の資金調達)

本年度は、産み落とす時期であり、NPO が行うイベントとして、大規模感を打ち出すことができた。しかし、次年度以降については、準備工数や当日の運営工数、予算面等を鑑み、継続開催ができる体制や規模感で、基盤を整えることが必要である。

平成21年6月13日　中日新聞西三河版

■開館から6年目　来館5万人達成

開館から6年目
来館5万人達成
刈谷市民ボランティア活動支援センター
刈谷市寿町の刈谷市民ボランティア活動支援センターが十一日、開館から六年目で来館者五万人に達した。
同センターは市が二〇〇三年十月に、市民活動やボランティア活動の支援や交流の場としてオープンし、特定非営利活動法人「NPO愛知ネット」が委託を受けて運営。現在では二百八十九団体、市民会員百七十一人、市民以外の個人会員百二十五人が登録している。
五万人目となったのは、男女共同参画の活動をしている「ぽこの会」（同市東境町）の早川宣子代表で、スタッフから観葉植物や色紙などが手渡された。牧野清光センター長は「大勢の利用で達成できてうれしい。団体同士が連携できる結びの場にしていきたい」と話していた。
来館5万人を達成し喜ぶスタッフや利用者ら＝刈谷市寿町の刈谷市民ボランティア活動支援センターで

刈谷市寿町の刈谷市民ボランティア活動支援センターが十一日、開館から六年目で来館者五万人に達した。

同センターは市が二〇〇三年十月に、市民活動やボランティア活動の支援や交流の場としてオープンし、特定非営利活動法人「NPO愛知ネット」が委託を受けて運営。現在では二百八十九団体、市民会員百七十一人、市民以外の個人会員百二十五人が登録している。

五万人目となったのは、男女共同参画の活動をしている「ぽこの会」（同市東境町）の早川宣子代表で、スタッフから観葉植物や色紙などが手渡された。牧野清光センター長は「大勢の利用で達成できてうれしい。団体同士が連携できる結びの場にしていきたい」と話していた。

平成 21 年 6 月 18 日　中日新聞三河版

■シール型の入場券で投票得票数に応じ分配金

中日新聞　2009年(平成21年)6月18日(木曜日)
万博の市民参加精神 継承、発展を
We♡NPO
■9月、長久手で育成イベント
シール型の入場券で投票
得票数に応じ分配金

2005 年の愛・地球博で生まれた市民参加の精神を継承、発展させようと、今年 9 月に長久手町の愛・地球博記念公園で、3 万人規模の民間非営利団体（NPO）育成イベント「愛フェス 2009」が開催される。主催者は、活動を PR して支援を受けたい NPO や、イベントで行うダンス、歌のコンテストの参加者を 30 日まで募集している。　（大村歩）

主催するのは、「NPO 愛知ネット」（天野竹行理事長）ら複数の NPO、社会福祉法人のメンバーで構成する「愛フェス開催委員会」。神田真秋知事、河村たかし名古屋市長も顧問を務める。愛・地球博では「市民参加」がキーワードになり、環境、福祉、貧困問題などに対する市民活動が一時的に高まったが、開催委は、地球博終了後に低調となったと分析。再度、市民活動の機運を盛り上げようと愛フェスを企画した。

イベントでは、来場者が一枚五百円のシール型入場券を購入。活動を PR する NPO や市民団体のブースを見て回り、支援したいと思う団体のブースにシールを張って投票する。得票数に従って開催委から分配金が渡される。

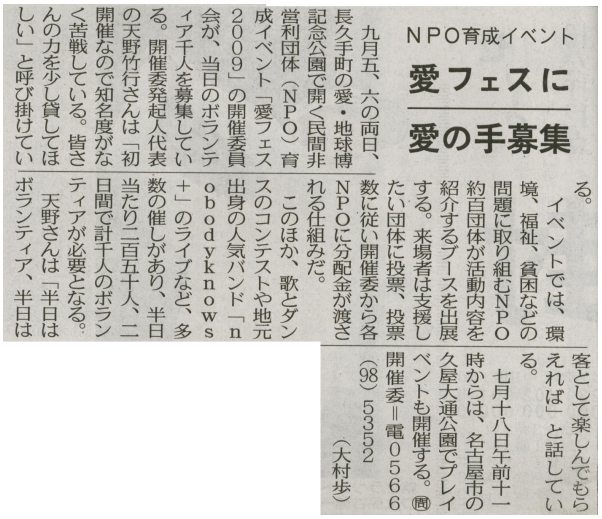
「ファンドレイジング」と呼ばれる仕組みで欧米では広まっているが、「日本で一万人以上の規模で行われるのは初めて」（天野理事長）という。

七～八月には県内五地区で事前イベントを開き、地区予選として歌とダンスのコンテストを実施。九月の本番で決勝を行う。企画の趣旨に賛同した「nobodyknows＋」など地元出身の人気バンドもライブを行い、ステージを盛り上げる。

問い合わせは開催委事務局＝電 0566（98）5352＝へ。

平成 21 年 7 月 18 日　中日新聞愛知総合

■ＮＰＯ育成イベント　愛フェスに愛の手募集


NPO育成イベント
愛フェスに
愛の手募集

九月五、六の両日、長久手町の愛・地球博記念公園で開く民間非営利団体（NPO）育成イベント「愛フェス2009」の開催委員会が、当日のボランティア千人を募集している。開催委発起人代表の天野竹行さんは「初開催なので知名度がなく苦戦している。皆さんの力を少し貸してほしい」と呼び掛けている。

イベントでは、環境、福祉、貧困などの問題に取り組むNPO約百団体が活動内容を紹介するブースを出展する。来場者は支援したい団体に投票、投票数に従い開催委から各NPOに分配金が渡される仕組みだ。

このほか、歌とダンスのコンテストや地元出身の人気バンド「nobodyknows＋」のライブなど、多数の催しがあり、半日当たり二百五十人、二日間で計千人のボランティアが必要となる。天野さんは「半日はボランティア、半日は客として楽しんでもらえれば」と話している。

七月十八日午前十一時からは、名古屋市の久屋大通公園でプレイベントも開催する。問開催委＝電0566（98）5352

（大村歩）

9月5、6の両日、長久手町の愛・地球博記念公園で開く民間非営利団体（NPO）育成イベント「愛フェス 2009」の開催委員会が、当日のボランティア千人を募集している。開催委発起人代表の天野竹行さんは「初開催なので知名度がなく苦戦している。皆さんの力を少し貸してほしい」と呼び掛けている。

イベントでは、環境、福祉、貧困などの問題に取り組む NPO 約 100 団体が活動内容を紹介するブースを出展する。来場者は支援したい団体に投票、投票数に従い開催委から各 NPO に分配金が渡される仕組みだ。

このほか、歌とダンスのコンテストや地元出身の人気バンド「nobodyknows＋」のライブなど、多数の催しがあり、半日当たり 250 人、二日間で計 1,000 人のボランティアが必要となる。天野さんは「半日はボランティア、半日は客として楽しんで貰えればと話している。

7月18日午前11時からは、名古屋市の久屋大通公園でプレイベントも開催する。開催委＝電 0566(98)5352　（大村歩）

平成 21 年 7 月 24 日　中日新聞三河版

■「愛フェス」踊ってＰＲ 名古屋でコンテスト

民間非営利団体（NPO）育成イベント「愛フェス 2009×愛知サマーセミナーフェスティバル」が、名古屋市中区栄の久屋大通公園で開かれた。NPO に関心を持ってもらおうと、複数の NPO のメンバーらでつくる「愛フェス 2009 開催委員会」が主催。ダンスや歌のコンテスト「パフォーマンスコンテスト予選」があり、県内などの十一団体計約百人が出場し、軽快な音楽にのってキレのあるダンスなどを披露した。また、環境対策、町づくりなどの NPO 約百団体が全国から集まり、ブースを設けて活動内容を紹介した。コンテストの上位二組は、九月に愛・地球博記念公園（長久手町）で開かれる本大会に出場する。

「愛フェス」
踊ってPR
名古屋でコンテスト

民間非営利団体（NPO）育成イベント「愛フェス2009×愛知サマーセミナーフェスティバル」が、名古屋市中区栄の久屋大通公園で開かれた。NPOに関心を持ってもらおうと、複数のNPOのメンバーらでつくる「愛フェス2009開催委員会」が主催。ダンスや歌のコンテスト「パフォーマンスコンテスト予選」があり、県内などの十一団体計約百人が出場し、軽快な音楽にのってキレのあるダンスなどを披露した。

また、環境対策、町づくりなどのNPO約百団体が全国から集まり、ブースを設けて活動内容を紹介した。

コンテストの上位二組は、九月に愛・地球博記念公園（長久手町）で開かれる本大会に出場する。

コンテストでダンスなどのパフォーマンスを披露する子どもたち＝名古屋市中区栄の久屋大通公園で

平成 21 年 7 月 30 日　中日新聞

■共感得られる NPO へ　「愛フェス 2009　CM作り呼び掛け」

共感得られるNPOへ
愛フェス2009
CM作り呼び掛け
寄付集め理解求める

街おこしや環境など幅広い分野で活動する NPO。特定非営利活動促進法（NPO 法）が施行されて十年余がたち〝市民権〟は得たが、活動への理解が一部にとどまる現実もある。「日本初の大規模ファンドレイジング（資金調達）イベント」と銘打ち、9月に愛知県内で開かれる「愛フェス 2009」では、参加 NPO が CM を通し、若者らの共感を呼ぼうと試みる。賛同を広げる情報発信力が NPO にも必要とされている。（境田夫緒）

平成 21 年 8 月 3 日　朝日新聞夕刊

■ライブ楽しみながら社会貢献

ライブ楽しみながら社会貢献
資金調達へNPO催し
来月、愛・地球博公園で

音楽を入り口にして若者を社会貢献に引きつけようと、大規模な非営利組織（NPO）の資金調達イベントが 9 月に愛知県で催される。入場料500円の全額を寄付にあてるだけでなく、音楽ライブの高揚感をNPOへの共感へと橋渡しする工夫を凝らした仕掛けが特徴だ。（青瀬健、富岡史穂）

－資金調達へ NPO 催し－　来月、愛・地球博公園で「愛フェス」と名付けられたイベントは 9 月 5、6 日の 2 日間、同県長久手町の愛・地球博記念盤園（モリコロパーク）で催される。災害救援 NPO「愛知ネット」の呼びかけで開催委員会が立ち上がり、自治体や地元企業も賛同した。「不況で企業が苦しいときこそ、NPO のがんばりどころ。イベントで、未来を担う若い仲間を増やしたい」と愛知ネット理事長の天野竹行さん（43）は話す。

ヒップホップの「nobodyknows＋」（ノーバディーノーズ）」や「カルテット」など名古屋を拠点に活動する音楽グループなどのライブと、一般参加による音楽やダンスのコンテストが主な企画。会場の周囲には、参加 NPO100 団体（予定）がそれぞれの活動を紹介するテントを設けたり、全国から集まった料理自慢の福祉施設が屋台を開いたりする。3 万人の来場を見込む。

来場者は 500 円の協力金を払い、投票シール付きの入場券を受け取る。ライブの合間に、会場内で NPO の展示を見て回り、「地域の未来に貢献している」と共感した団体に投票できる。売り上げは、得票に応じて、参加 NPO で分配する。

NPO の資金調達に詳しいファンドレックス（東京）の代表、鵜尾雅隆さんは「NPO に対する社会の期待は高いのに、日本人は寄付に慣れていない。愛フェスのようにワクワクしながら寄付ができる機会が増えれば、社会貢献や NPO はもっと身近で楽しい存在になれるはず」と期待を込める。

問い合わせはメール（info@fes.jp）へ。

平成21年8月5日　毎日新聞

■万博開催地に立って

東海 TOKAI ワイド
夢中人
愛フェス2009の仕掛け人　天野竹行さん ㊤
万博開催地に立ち返って
■NPOにかける思い 若い人たちに伝えたい

ー愛フェス2009（9月5、6日）は全国約100のNPOと万単位の市民を巻き込む愛知万博跡地（愛・地球博記念公園）での一大野外イベントだ。もっと若者にNPOのことを伝えたい、社会や地域のために一緒にできることをやろうよ、と呼びかけるイベントの仕掛け人にとって、今につながる10年近く前の忘れられない体験がある。

◆99年に災害復旧のNPO法人を作って、最初にあったのが00年の北海道の有珠山噴火災害でした。まだ設計会社をやっていたし、息子が5日後に入学式だったけど現地に行っちゃったんです。ところが、1ヵ月活動しても被災地が元気になっていくという感じがしない。そんな時「桜坂」がヒットしていた福山雅治がおしのびでやって来た。歌を歌ったらみんな喜ぶんです。涙を流して喜ぶ。「すげーな」と思いました。

福山は単に歌を歌って喜ばせたんじゃない。（被災者の心の中に）苦しい災書だったけど福山雅治が支援に来て、歌を歌ってくれたという「いい思い出」を残していったんです。「僕もそういう活動をしていこう」というきっかけになった出来事でした。

ーその5年後の05年、新潟中越地震が起きる。被災地で子供たちと出会い、有珠山での思いが愛知万博とドッキングする。

◆新潟に支援活動に行って（地褒被害で）百何十年続いた小学校が廃校になるっていう請を聞きました。災害救援をやりながら「福山雅治みたいなことができないか」と思った時、浮かんだのが愛知万博。こういう状況だからこそ、この子たちにいい思い出を作ってあげたい。いろんな人の協力を得て、大型バス3台で親御さんと一緒に万博に連れて行きました。「災害はあったけど、何かいいイメージを残せてあげたらいいな」という思いが、有珠山災害から数年後に現実になりました。自らは防災NPOとして確実に実績を重ね、多くの分野にネットワークを広げた10年。それは特定非営利活動促進法（NPO法）施行後の10年とも重なり、やがて「NPOは次の10年に向けて何をすべきか」という全体の問題意識に発展していく。その答えの1つが愛フェス09だった。

◆「僕らは地元の NPO として何を残せたんだろう」と考えた時、頭に浮かんだのは「（残し発展させるためには）やっぱり若い人たちに僕らの思いを伝えていく必要があるよね」ということでした。

NPO はいいことやってるし、団体数も増えてきた。そこにあぐらをかいているということではないけども、情報発信は必ずしも十分ではなかったと患う。万博でボランティアをやる人がものすごく増えたのに、その人たちのモチベーションを維持できなかったのも、NPO 側に発信力がなかったから。NPO に全然興味のない人たち、特に若い人たちにどうアプローチするか。次の 10 年に向け、それを愛知万博があった場所でやってみようと思うんです。

平成21年8月12日　毎日新聞

■得られた共感　次の一歩に

夢中人
東海 TOKAI ワイド
愛フェス2009の仕掛け人　天野竹行さん㊧
得られた共感 次の一歩に
HOPE
■500円入場券を応援したいNPOに投票して
あまの・たけゆき　愛知県西尾市生まれ。44歳。99年に災害復旧のNPO愛知ネットを創設し、理事長。やがて来る東海、東南海地震での活動を見越し、ネットワークをむすげている。「平野の防災が大切」がモットー。
夢は「NPO愛知ネットがこの地域にあったからこそ減災ができたと言われること」
愛フェス2009のプレイベントで踊る子供たち

―9月5日から2日間、愛知県長久手町の愛・地球博記念公園で開かれる野外イベント「変フェス2009」。ステージで音楽やパフォーマンスを楽しみながら、全国から集まる約100のNPOと交流する催しだ。参加したNPOが愛フェスのテーマ「共感と感動」を持続させるための仕掛けも用意されている。

◆500円で入場券を買ってもらい、それを応援したいNPOに投票してもらうんです。ファンドレイジング（寄付投票）という仕組みで、おそらく大規模イベントとしては日本初だろうと思います。

―「500円」は会場に足を運ぶ多くの市民と参加したNPOとのかけはしになるかもしれない。

◆投票数によって寄付金がNPOに分配されます。分配を受けたNPOは、それを何に使ったのかホームページ上で1年間報告する。投票した人がホームページを見て「こんなことをしているんだ」と、活動に参加してくれれば何かが生まれるし、それを来年の愛フェスに持ってくれれば、またスパイラルを生む。そんな循環です。愛フェスは毎年やるつもりですから。

―特定非営利活動法（NPO法）が施行されて10年。愛フェスは「次の10年」を展望し、NPOを多くの人、特に若者に知ってもらうための情報発信イベントでもある。

◆NPOがイベントに出展する時は、テントがあって、机があって、おぜん立てされて、お金も出さなくてもというパターンが多かったんですよ。行政から「いつもPRしなきゃいけないって言ってるじゃないか。場を用意してあげるから」と言われ、おつきあいで行くみたいなところがあった。だから、自分たちから情報発信して共感を得れば何かが返ってくるという仕組みが必要だと考えた。

―そして、3万人規模のイベントはさまざまなボランティアが支える。

◆去年の9月、愛知県庁に行って説明会を開きました。「こういうイベントやりたいんだ、1年間ボランティアでつきあってくれ」と。そうしたら90人の職員の方が話しを聞いてくれて。うれしかったですね、アフター5のボランティア。あれで元気が出たし、行政って今は何でもカットですけど、一人一人は本当に熱い思いを持って「応援したるわ」と言ってくれる。

―1000人の一般ボランティアも募集中だ。（詳しくは愛フェス2009のホームページで）。そこからNPOの活動に関心を持つ若者が生まれてくれればという期待も。

◆NPOブース支援というのがあって、NPOの人に代わって若者目線で活動を伝えてもらうために、ある程度NPOのことを知っておいてもらわなきゃいけない。NPOの方も、若者に伝える時にどういうふうにすればいいかを、そこで勉強できる。若い人が会場で社会的な問題意識を持っているNPOと触れることで、（NPO活動に参加する）代一歩になってくれればと思ってるんです。　聞き手・三岡昭博

平成21年9月6日　中日新聞

■全国NPO86法人　フェスで活動PR　　モリコロパーク

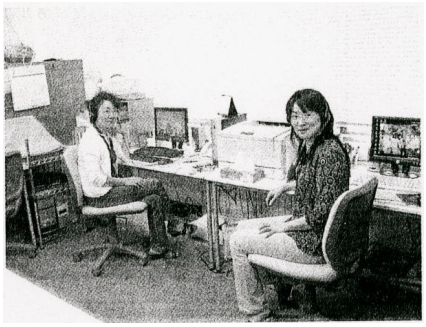
民間非営利団体（NPO）を支援、育成する「愛フェス2009」（中日新聞社後援）が五日、長久手町の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）で始まった＝写真。六日まで。
大芝生広場には青森県から佐賀県までの86法人のブースが並び、職員が熱心に活動をPR。多くの家族連れらがボディーペイントをしてもらったり、紙飛行機を作ったりして交流した。東栄町の和太鼓グループ「志多ら」のライブなどもあり、催しを盛り上げた。
フェスでは、来場者が共感したNPOに投票すると、入場時に支払った協力金が、得票数に応じて分配される「ファンドレイジング」という手法を採用した。主催する実行委に加わった「NPO愛知ネット」の天野竹行理事長（44）は「これだけの団体が集まる機会は貴重。一つでも多くに共感してもらえれば」と来場を呼び掛けていた。
六日は人気バンド「nobodyknows+」らのイベントがある。

全国NPO86法人
フェスで活動PR
モリコロパーク
民間非営利団体（NPO）を支援、育成する「愛フェス2009」（中日新聞社後援）が五日、長久手町の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）で始まった＝写真。六日まで。大芝生広場には青森県から佐賀県までの八十六法人のブースが並び、職員が熱心に活動をPR。多くの家族連れらがボディーペイントをしてもらったり、紙飛行機を作ったりして交流した。東栄町の和太鼓グループ「志多ら」のライブなどもあり、催しを盛り上げた。
フェスでは、来場者が共感したNPOに投票すると、入場時に支払った協力金が、得票数に応じて分配される「ファンドレイジング」という手法を採用した。主催する実行委に加わった「NPO愛知ネット」の天野竹行理事長（右）は「これだけの団体が集まる機会は貴重。一つでも多くに共感してもらえれば」と来場を呼び掛けていた。
六日は人気バンド「nobodyknows+」らのステージがある。

平成21年11月　自治体国際化フォーラム

■電話を用いた通訳事業　～NPO愛知ネット「いっつもトーク」～

「いっつもトーク」では病院や行政窓口等の契約者側が、月額の利用料と利用時間に応じた料金を負担している。あらかじめ「電話で通訳します」とポルトガル語・スペイン語・日本語で書いたカードを契約先におき、ポルトガル語とスペイン語圏の患者が来た時には、そのカードを指さしてもらって言語を特定する。マイクとスピーカーがセットになった三者通話セット「ユビキチャット」が携帯電話やPHSに接続されており、ここから「いっつもトーク」の電話通訳センターに電話をする。



電話通訳センターに電話がかかると、通訳が始まる。三者通話セットを通して、相手はハンズフリーで通訳してもらうことができる。携帯電話と三者通訳セットは持ち運びが可能なため、医療機関の場合、受付、診察、検査、会計と場所を変えても通訳が可能だ。現在提供しているポルトガル語とスペイン語のうち、利用の九割がポルトガル語、一割がスペイン語だという。

NPO 愛知ネットのあゆみ
すべての活動は、災害時の情報のために

１９９９年

4月　NPO 愛知ネット設立

２０００年

1月　特定非営利活動法人として、愛知県より認証を受ける
4月　北海道有珠山にて災害救援活動、インターネットでの情報発信実施
9月　東海豪雨災害で災害救援活動、インターネットでの情報発信を実施

２００１年

4月　安城市・知立市・刈谷市 IT 講習会(一般・障がい・外国人対応　開始)
6月　安城市・愛知県総合防災訓練(矢作川河川敷)参加
9月　愛知県・新城市総合防災訓練　参加

２００２年

2月　静岡県災害ボランティアセンター立ち上げ訓練　参加
4月　市民防災フォーラム 2002(碧海5市地域対象)開催。
　日本財団助成事業　外国人のための情報支援サイトプロジェクト開始
5月　第1回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ(愛知県作手村)開催
6月　愛知県・一宮市総合防災訓練参加
7月　大垣荒崎地区水害で災害救援活動、インターネットでの情報発信の実施
8月　第2回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ(愛知県作手村)開催
9月　蒲郡市・愛知県総合防災訓練・名古屋市総合防災訓練参加
11月　安城市東栄町今本町防災訓練『北部小学校避難所体験』開催

２００３年

1月　「みかわ NPO スクエア」プレオープン
3月　あんじょう国際交流祭「Anjo International Festival」開催
4月　市民防災フォーラム 2003　開催
　日本財団助成事業　外国籍住民防災講座開始
7月　九州豪雨・宮城県北部地震に伴う情報発信を行う
8月　愛知県多文化共生プロジェクト「医療通訳スタッフ要請講座」開始
　「地域ふれあいネットワーク」防災　キャンプ(愛知県作手村)　開催
　愛知県・刈谷市総合防災訓練・名古屋市総合防災訓練　参加
9月　十勝沖地震に伴う情報発信を行う
10月　刈谷市民ボランティア活動支援センター(刈谷市より受託)オープン
11月　幡豆町総合防災訓練　参加

２００４年

1月　「安否確認システム」を発表
4月　「いっつもトーク」を発表
6月　経済産業省 市民活動活性化モデル事業(市民ベンチャー事業)「災害に強い多文化共生コミュニティ《安心・安全・安城》プロジェクト」開始
7月　新潟豪雨災害(新潟県三条市・中之島町・見附市)救援活動
8月　「安城地域サポートセンター」(安城市末広町)オープン
　愛知県・豊橋市総合防災訓練(豊橋市三河港)参加
9月　香川県高松市高潮災害救援活動
11月　あいち中越支援ネットワークを組織、中越地震関連支援を開始

２００５年

1月　安城市「安城市民活動センター」受託　オープン
3月　経済産業省市民活動活性化モデル事業支援「電話通訳センター構築」
4月　「愛・地球博」警備部署外国人通訳センター運営業務開始
6月　岡崎市「岡崎市市民協働モデル事業」
8月　安城市・愛知県総合防災訓練(安城市内5箇所)参加
　愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
9月　内閣府「防災功労者防災担当大臣表彰」受賞
11月　内閣府「地域情報システムによる安全、安心プロジェクト」開始 安城市防災科研「災害情報コーディネーター養成に関する調査事業」
12月　行政通訳養成講座 開講

２００６年

1月　愛知県青年の家(岡崎市美合町)愛知県より受託
4月　刈谷市いっつもトーク(行政通訳)サービス開始
7月　経済産業省「若者と中小企業のネットワーク構築事業」開始
8月　愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
9月　愛知県　防災訓練参加
10月　愛知県「防災まちづくりポータルサイト作成」業務
12月　安城市自主防災支援事業

２００７年

3月　愛知県自主防災組織リーダー研修
4月　安城市安全安心メール配信
6月　経済産業省「平成 19 年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業」
　株式会社デンソー「できるエコ DECO スクールの企画・運営」
7月　愛知県河川情報伝達実証実験
9月　株式会社デンソー「リユースパソコン寄贈プログラム団体交流会」
11月　安城市町内会パソコン講習会

２００８年

2月　愛知県知事認定「平成 19 年度コミュニティビジネス優良モデル事業者」
3月　愛知県自主防災組織リーダー研修　開催
6月　経済産業省「平成 20 年度若者と中小企業のネットワーク構築事業」
　岩手・宮城内陸地震救援活動
8月　岡崎市8月末豪雨災害救援活動
9月　独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)「平成20年度災害NPO とのW INDS 実験業務」
　独立行政法人防災科学技術研究所「島田市・安城市における災害リスクコミュニケーションに関する実証実験支援業務」
11月　厚労省「地域連携型障害者災害救援ガイドラインの策定に関する調査研究事業
　愛・地球博ボランティアセンター「災害ボランティア体験における一部プログラム運営業務」

２００９年

2月　安城市　市職員 NPO 研修
3月　三重県　みえ防災コーディネーターフォローアップ研修
4月　大府市民活動センター(大府市)・豊橋市民センター市民活動プラザ(豊橋市)受託　オープン
5月　独立行政法人　宇宙航空研究開発機構　災害 NPO との WINDS 実験業務委託
8月　独立行政法人　防災科学技術研究所　愛知県における自主防災活動高度化モデル事業支援業務
8月　トヨタ自動車株式会社「災害ボランティア体験イベント研修」協力
9月　「愛フェス2009」開催
10月　知立市　災害ボランティア養成講座